

(様式第 10)

阪 医 病 総 第 15 号  
平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

大阪大学医学部附属病院  
病院長 金倉 讓 (印)

大阪大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1番1号
氏 名	学長 平野 俊夫

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

大阪大学医学部附属病院
-------------

3 所在の場所

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2番15号	電話(06)6879-5111
--------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名 (1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 循環器内科      2 腎臓内科      3 消化器内科   4 内分泌・代謝内科   5 呼吸器内科 6 アレルギー疾患リウマチ科   7 血液・腫瘍内科   8 老年内科      9 神経内科      10 漢方内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 心臓血管外科 2 呼吸器外科 3 消化器外科 4 乳腺・内分泌外科 5 小児外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科	(2)小児科	(3)整形外科	(4)脳神経外科	(5)皮膚科	(6)泌尿器科	7産婦人科
(8)産科	(9)婦人科	(10)眼科	(11)耳鼻咽喉科	(12)放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科		(15)麻酔科	(16)救急科			

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。 ※「1精神科」について本院では「精神・神経科」と標榜

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無					
歯科と組み合わせた診療科名						
1	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経・精神科 2 病理診断科
------------------

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
52床	床	床	床	1,034床	1,086床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	454人	633人	822.8人	看 護 補 助 者	71人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	1人	22人	9.25人	理 学 療 法 士	13人	臨 床 検 査 技 師	88人
薬 剤 師	74人	0人	74人	作 業 療 法 士	4人	衛 生 検 査 技 師	3人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	17人	そ の 他	1人
助 産 師	38人	0人	38人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	898人	26人	916.6人	臨 床 工 学 技 士	25人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	9人
准 看 護 師	2人	1人	2.6人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	11人
歯 科 衛 生 士	0人	3人	2.3人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	239人
管 理 栄 養 士	8人	0人	8人	診 療 放 射 線 技 師	60人	そ の 他 の 職 員	40人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	25 人	眼 科 専 門 医	17 人
外 科 専 門 医	95 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	13 人
精 神 科 専 門 医	14 人	放 射 線 科 専 門 医	30 人
小 児 科 専 門 医	33 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	19 人
皮 膚 科 専 門 医	13 人	整 形 外 科 専 門 医	25 人
泌 尿 器 科 専 門 医	18 人	麻 酔 科 専 門 医	7 人
産 婦 人 科 専 門 医	25 人	救 急 科 専 門 医	15 人
		合 計	347 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	880.0 人	0 人	880.0 人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	2,418.7 人	14.6 人	2,433.3 人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	1706.9 剤		
必要医師数	231 人		
必要歯科医師数	1 人		
必要薬剤師数	30 人		
必要(准)看護師数	523 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

### 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	248 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	14床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 462 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台			病床数	31床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 55 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	374m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、遠心分離機、自動分析装置			
細菌検査室	174m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、恒温器、安全キャビネット			
病理検査室	387m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検査台、顕微鏡、ドラフトチャンバー			
病理解剖室	192m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台、保管庫、冷蔵庫			
研究室	12,434m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン等OA機器、実験台、保管庫			
講義室	1,410m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	10室	収容定員	1,089人
図書室	4,062m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	22室	蔵書数	37.8万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

### 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年 4月 1日～平成26年 3月31日		
紹介率		92.39 %	逆紹介率	56.78 %
出 根 拠	A：紹介患者の数	20,195人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	13,082人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,089人		
	D：初診の患者の数	23,038人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術 原発性若しくは転移性肝がん又は肝良性腫瘍	3人
経カテーテル大動脈弁植込み術 弁尖の硬化変性に起因する重度大動脈弁狭窄症(慢性維持透析を行っている患者に係るものに限る)	8人
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	1人
重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病に対する脳死ドナー又は心停止ドナーからの膵島移植 重症低血糖発作を伴うインスリン依存性糖尿病	0人
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であつて、HER2が陰性のものに限る。)	1人
急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ療法 急性心筋梗塞(再灌流療法の成功したものに限る。)	0人
自己口腔粘膜を用いた培養上皮細胞シートの移植術 角膜上皮幹細胞疲弊症(二十歳以上かつ書面により同意した場合であつて、移植の対象となる眼球の角膜上皮幹細胞が角膜全体にわたり疲弊し、角膜の表面全体が結膜組織で被覆されているものに限る。)	2人
解離性大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術 保存治療が困難なスタンフォードB型解離性大動脈瘤	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	心房細動に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	110人
当該医療技術の概要 心房細動に対し、三次元マッピング(Electroanatomical mapping)やイメージング画像の統合による標的決定を行う。			
医療技術名	心室頻拍に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 薬物治療が困難な心室頻拍に対し、心内膜・心外膜からマッピングを施行し不整脈回路を同定し治療を行う。			
医療技術名	先天性心疾患術後不整脈症例に対する経皮的カテーテル心筋焼灼術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 複雑心奇形術後に発生する不整脈に対し、三次元マッピングやイメージング画像統合により不整脈起源を明らかにし、総合的な治療戦略を提供する。			
医療技術名	重症心不全・心臓非同期症例における再同期療法	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 心室内収縮の非同期による心機能低下症例に対し右室・左室からのペーシング治療を行い、収縮を同期させることにより心機能の改善を図る。			
医療技術名	冠動脈疾患に対する生体吸収性ステント留置術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 現在経皮的冠動脈インターベンション(PCI)で使用されている金属ステント部分が生体吸収性のPLA(Poly-lactide)で作られたもので、加水分解により完全に生体吸収される新しいステントである。			
医療技術名	冠動脈完全閉塞病変に対する経皮的インターベンション治療	取扱患者数	51人
当該医療技術の概要 治療が困難なため熟練した手技を要する完全閉塞病変に対しての冠動脈インターベンション(PCI)治療			
医療技術名	FFR、冠動脈イメージング(IVAS,OCT)による虚血性心疾患の診断と治療	取扱患者数	357人
当該医療技術の概要 従来の冠動脈造影検査に加えての画像診断技術を用いた冠動脈病変の詳細な診断と治療			
医療技術名	冠動脈高度石灰化病変に対するロータブレードによるインターベンション治療	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 先端にダイヤモンドをちりばめた高速回転ドリルによる冠動脈石灰化狭窄病変に対する治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍に対する経皮的ラジオ波焼灼術	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 肝細胞癌を主として、転移性肝癌を含めた肝悪性腫瘍に対して、超音波造影剤やナビゲーションシステムを併用した精度の高い局所治療を施行する。			

医療技術名	ロボット支援大腸癌根治術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 da Vinciシステムをもちいた胃癌手術を高度な医療として行っている。本システムを用いることにより、従来の一般的な内視鏡下手術と比較し、手振れがなくストレスの少ない、より複雑で細やかな手術手技を可能としており、また3次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能と考えられており、手術関連データ収集を行っている。			
医療技術名	ロボット支援胃癌根治術	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 da Vinciシステムをもちいた胃癌手術を高度な医療として行っている。本システムを用いることにより、従来の一般的な内視鏡下手術と比較し、手振れがなくストレスの少ない、より複雑で細やかな手術手技を可能としており、また3次元による正確な画像情報を取得できるため、より安全かつ侵襲の少ない手術が可能と考えられており、手術関連データ収集を行っている。			
医療技術名	胃癌腹膜播種に対する5-アミノレブリン酸を用いた光力学診断の臨床研究	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 進行胃癌において、病期診断目的に審査腹腔鏡検査が行われている。ヘムの代謝産物である5-アミノレブリン酸を用いて、腫瘍細胞と正常細胞における代謝の違いを利用した光力学診断を加えた審査腹腔鏡検査の安全性、有効性の検証を行っている。			
医療技術名	腹腔内化学療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 胃癌の腹膜播種に対して、腹腔内に留置したカテーテルから抗癌剤を直接投与する方法。			
医療技術名	食道癌手術時の半回神経のモニタリング	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 食道癌術後における最も頻度の高く、かつQOLの低下の著しい合併症である反回神経麻痺を術中にモニタリングできるシステム。			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 生体ドナーから肝臓の外科区域、左葉、あるいは右葉を用いて行う肝移植。脳死肝移植が発展しないわが国を中心に発展してきた。			
医療技術名	脳死肝移植	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳死ドナーからの肝臓を用いる肝移植。1999年からわが国で始まった。			
医療技術名	クローン病の瘻孔に対する脂肪幹細胞充填治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 皮下脂肪から脂肪組織由来間葉系細胞(ADSC)を分離し、難治性瘻孔に注入して治癒を促す技術。			
医療技術名	食道アカラシアに対するSingle port 手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 食道アカラシアは、食道の運動機能障害を病態とする病因不明な稀な疾患である。その治療として、外科的に下部食道括約筋の筋層切開が行われるが、単孔式腹腔鏡手術を行うことで、より低侵襲かつ整容性にすぐれた治療を行っている。			
医療技術名	消化管間葉系肉腫(GIST)に対する遺伝子診断	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 消化管間葉系肉腫は、KITあるいはPDGFRA遺伝子の獲得型変異にて発生する。遺伝子診断を行うことで、疾患の悪性度予測、また分子標的治療薬の効果予測につながる。外科切除検体を用いて、上記遺伝子変異の有無部位の検討を行っている。			

医療技術名	乳腺MRIガイド下針生検	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 乳腺MRIガイド下針生検は、造影MRI検査でしか同定できない乳腺の病変に対して、CADシステムなどを利用し、乳腺造影MRIで標的的病変の部位を同定し、MRI機器本体の外に患者を出して吸引補助下針生検を施行する。			
医療技術名	ナビゲーションを用いた股関節再建術	取扱患者数	105人
当該医療技術の概要 CTデータをもとに術前計画を立案し、計画通りに手術を施行するためコンピュータにより手術器具の方向、位置をリアルタイムに表示して手術を行う。より良好な関節機能再建、周術期合併症低減に有効である。			
医療技術名	カスタムガイドを用いた四肢変形矯正	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 CTデータを用いた三次元シミュレーションに基づいた四肢の変形矯正を患者ごとに設計されたカスタムメイド手術ガイドを用いて正確に行う。			
医療技術名	骨腫瘍に対するナビゲーションガイド、ラジオ波焼灼術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 骨腫瘍を低侵襲に、あるいはアプローチ困難な部位にある腫瘍に対し、ラジオ波発生装置をナビゲーションガイドを用いて挿入し熱焼灼する。			
医療技術名	骨軟部腫瘍の融合遺伝子検査	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 染色体転座を有する骨軟部腫瘍の検体からRNAを抽出し、RT-PCR法で融合遺伝子の存在を検出し、遺伝子診断を行う。			
医療技術名	関節軟骨病変に対する自己滑膜間葉系幹細胞由来三次元人工組織移植法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 自己滑膜由来間葉系幹細胞をアスコルビン酸を添加して高密度培養することにより作製した100%自己由来3次元人工組織を軟骨欠損部に移植する新たな軟骨再生治療である。			
医療技術名	経頭蓋超音波検査を用いた微小塞栓子シグナルの検出	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 脳梗塞患者や頭頸部主幹動脈患者の塞栓源検索およびその活動性評価、心臓血管外科、脳外科手術時の塞栓症モニタのため、経頭蓋超音波検査(Transcranial Doppler ultrasonography:TCD)を用いた微小塞栓子シグナルの検出を行っている。			
医療技術名	神経・筋イオンチャネル病の遺伝子診断	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 周期性失調症・周期性四肢麻痺では遺伝子検査に基づく診断が必要なことがあり、患者及び家族に説明し同意の上、遺伝子検査・診断を行っている。			
医療技術名	多発性硬化症における血液中Sema4Aの測定	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 多発性硬化症患者の血清Sema4A値はインターフェロンβ治療の反応性予測に役立つため、ELISA法で測定を行い、治療方針決定に役立っている。			
医療技術名	骨格筋生検・特殊染色	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 筋疾患が疑われた場合、筋生検が診断に必要なことが多く、通常のH&E染色以外に凍結標本を用いた酵素染色や免疫染色を各種行い、治療方針の決定に役立っている。			

医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激による難治性神経障害性疼痛治療	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 経頭蓋磁気刺激を高頻度5Hzで反復して、一次運動野を刺激することで、難治性神経障害性疼痛を一時的に緩和することができる。			
医療技術名	反復経頭蓋磁気刺激によるパーキンソン病治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 経頭蓋磁気刺激を高頻度5～10Hzで反復して、一次運動野を刺激することで、パーキンソン病症状を一時的に改善することができる。			
医療技術名	微小下垂体機能腺腫の4D-CT撮影	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 微小下垂体機能腺腫(クッシング病など)はMRIでも可視化できないことがあり、4D-CT撮影で可視化できることもある。			
医療技術名	腰椎固定術におけるisthmus guided CBT法	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 脊椎(腰椎)固定術における、より安全なscrew刺入法である。			
医療技術名	Pedicle Screwを用いず棘突起間plateとexpandable spacerを用いた腰椎椎間固定術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脊椎手術において、pedicle screwを不要とする固定術である。			
医療技術名	和田テスト	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 頸動脈よりプロポフォールもしくはイソゾールを投与し、脳機能を解析する。			
医療技術名	覚醒下手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 てんかん、脳腫瘍の手術で術中に覚醒し、神経機能、脳波検査を実施する。			
医療技術名	頭蓋内電極留置による脳機能評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 外科的に頭蓋内に電極を留置し、2-3週間にわたり脳機能を評価し、てんかん焦点切除や脳腫瘍摘出に役立つ。			
医療技術名	MEG測定による脳機能評価	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 神経難病患者の脳機能をMEGを用いて解析する。			
医療技術名	携帯型計測計による歩行機能の評価	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 神経疾患による歩行障害を携帯型計測系を用いて客観的に評価する。			

医療技術名	ナビゲーションガイド下による、頭蓋内電極留置	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 ナビゲーションを用いて、より正確に頭蓋内に電極を留置し、その位置情報を把握する。			
医療技術名	脳磁図を用いた脳機能局在の解析	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 脳磁図を用いた脳機能局在、てんかん焦点の術前評価を行う。			
医療技術名	皮膚・軟部の脈管奇形に対するIVR治療	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要 頭頸部・四肢・体幹部等の脈管奇形(血管奇形・リンパ管奇形及びそれらの混合型)に対して塞栓術や硬化療法などIVR (interventional radiology)治療を行う。			
医療技術名	4D-Phase-contrast MRIを用いた脳動脈瘤の血流動態評価	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 心電図同期を行った3D-Phase-contrast MRAを用いて動脈瘤の血流を定量的に評価する。			
医療技術名	前立腺癌に対する高線量率組織内照射	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 前立腺癌の放射線治療を通常の外部照射で行えば約2か月連日の通院治療が必要なところを、本技術では4日間の治療にて完遂する上に、通常より高い生物学的効果線量を投与でき、かつ、周囲臓器の被曝を減らして有害事象を低減し得る。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	167人	・膿疱性乾癬	10人
・多発性硬化症	91人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	198人	・原発性胆汁性肝硬変	57人
・全身性エリテマトーデス	428人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	7人	・特発性大腿骨頭壊死症	68人
・再生不良性貧血	97人	・混合性結合組織病	80人
・サルコイドーシス	113人	・原発性免疫不全症候群	21人
・筋萎縮性側索硬化症	22人	・特発性間質性肺炎	33人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	301人	・網膜色素変性症	92人
・特発性血小板減少性紫斑病	123人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	46人	・肺動脈性肺高血圧症	42人
・潰瘍性大腸炎	225人	・神経線維腫症	67人
・大動脈炎症候群	86人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	28人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	49人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	11人
・脊髄小脳変性症	87人	・ライソゾーム病	48人
・クローン病	168人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	15人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	3人
・悪性関節リウマチ	15人	・脊髄性筋委縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	334人	・球脊髄性筋委縮症	7人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	12人
・後縦靭帯骨化症	97人	・肥大型心筋症	27人
・ハンチントン病	2人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	30人	・ミトコンドリア病	8人
・ウェゲナー肉芽腫症	17人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	33人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	220人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	4人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	28人	・黄色靭帯骨化症	5人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	41人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	208人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算
・臨床研修病院入院診療加算	・データ提出加算
・救急医療管理加算	・救命救急入院料
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・診療録管理体制加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・急性期看護補助体制加算	・小児入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算	・短期滞在手術基本料1
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・新生児特定集中治療室退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・総合評価加算	・

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・糖尿病合併症管理料	・網膜再建術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・移植後患者指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・糖尿病透析予防指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・外来リハビリテーション診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・外来放射線照射診療料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・ニコチン依存症管理料	・同種死体肺移植術
・ハイリスク妊産婦共同管理料(I)	・生体部分肺移植術
・がん治療連携計画策定料	・経皮的冠動脈形成術
・がん治療連携管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・薬剤管理指導料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療機器安全管理料1	・経皮的大動脈弁置換術
・医療機器安全管理料2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・持続血糖測定器加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・造血器腫瘍遺伝子検査	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・検体検査管理加算(I)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・検体検査管理加算(IV)	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・遺伝カウンセリング加算	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・補助人工心臓
・植込型心電図検査	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・時間内歩行試験	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・胎児心エコー法	・同種心移植術
・ヘッドアップティルト試験	・同種心肺移植術
・人工脾臓	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・皮下連続式グルコース測定	・腹腔鏡下肝切除術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・生体部分肝移植術

・中枢神経磁気刺激による誘発筋電図	・同種死体肝移植術
・光トポグラフィー	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・脳磁図	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・神経学的検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・補聴器適合検査	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・ロービジョン検査判断料	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・コンタクトレンズ検査料1	・同種死体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・生体腎移植術
・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)	・膀胱水圧拡張術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影	・人工尿道括約筋植込・置換術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・外来化学療法加算1	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・無菌製剤処理料	・輸血管理料 I
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・脳血管疾患等リハビリテーション料( I )	・内視鏡手術用施設機器加算
・運動器リハビリテーション料( I )	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・呼吸器リハビリテーション料( I )	・麻酔管理料( I )
・がん患者リハビリテーション料	・麻酔管理料( II )
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・放射線治療専任加算
・医療保護入院等診療料	・外来放射線治療加算
・透析液水質確保加算	・高エネルギー放射線治療
・磁気による膀胱等刺激法	・1回線量増加加算
・一酸化窒素吸入療法	・強度変調放射線治療(IMRT)
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・定位放射線治療
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・病理診断管理加算
・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))	

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・膀胱水圧拡張術	・
・腹腔鏡下肝部分切除術	・
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	・
・腹腔鏡補助下腓体尾部切除又は核出術	・
・腹腔鏡下子宮体がん根治手術	・
・腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

#### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	412回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26例 / 剖部検率 9.70%

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
次世代エピゲノム解析および超微細構造解析を応用した難治性心不全発症機序の解明	朝野仁裕	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
Hit-to-Leadの段階における心不全予測アッセイ系(申請名「心毒性を有する薬剤スクリーニングを可能にする薬剤」および「心保護ペプチドホルモン産生刺激薬剤」)のHTS系の開発)	朝野仁裕	循環器内科	300,000	補 文部科学省
急性心筋梗塞における侵襲的画像診断の標準化に向けた取り組み	小谷順一	循環器内科	1,000,000	委 国立循環器病研究センター
左室駆出率が保たれた心不全におけるカルニチンの意義	坂田泰史	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
IL-6アンブに着目した肺高血圧症に対する分子標的療法の開発	中岡良和	循環器内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
アンジオポイエチン-1を介した血管成熟化と特異化の分子機構の解明	中岡良和	循環器内科	6,890,000	補 独立行政法人日本学術振興会
内皮細胞を起点とした心血管系の恒常性維持機構の解明と制御	中岡良和	循環器内科	16,016,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
中性脂肪蓄積心血管症に対する中鎖脂肪酸を含有する医薬品の開発	平野賢一	循環器内科	78,078,000	補 厚生労働省
中性脂肪蓄積心血管症に対する栄養療法の開発	平野賢一	循環器内科	650,000	補 独立行政法人日本学術振興会
劇症型心筋炎の画期的診断技術の確立	南野哲男	循環器内科	1,490,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
細胞内侵入抗体を用いた難治性循環器疾患に対する創薬基盤技術の開発	南野哲男	循環器内科	1,700,000	委 独立行政法人科学技術振興機構
低酸素誘導性小胞体酸化還元酵素Ero1の心血管リモデリングにおける役割解明	南野哲男	循環器内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
急性心筋梗塞治療薬に対する新規治療薬の開発	南野哲男	循環器内科	65,000,000	補 厚生労働省

小計

13

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規HDL結合蛋白プログラニューリンは全身性炎症・糖代謝異常・動脈硬化を抑制する	山下静也	循環器内科	5,980,000	補	独立行政法人日本学術振興会
症例選択基準の選定・最適化にむけたデータ評価に関する研究	山下静也	循環器内科	31,250,000	委	独立行政法人医薬基盤研究所
老化関連疾患治療法の探索	李鍾國	循環器内科	14,040,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
「胚盤胞補完による異種キメラ臓器再生」～マウス生体内にラット幹細胞由来心臓を作製	李鍾國	循環器内科	2,600,000	補	独立行政法人日本学術振興会
オートファジー欠損関連蛋白から創薬を探る	猪阪善隆	腎臓内科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規臓器肥大epigenetic marker H4K20ac基礎的研究	貝森淳哉	腎臓内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
オートファジーの慢性腎疾患進行に対する防御機構の解明	高畠義嗣	腎臓内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腎移植患者に対するESAと天然型Vitamin D治療	濱野高行	腎臓内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アミノ酸レリジンによるuremic memory解除の試み	松井功	腎臓内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
粘膜免疫誘導組織および共生細菌のNSAIDs消化管粘膜傷害への関与の解明	飯島英樹	消化器内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
急性膵炎における腺房細胞障害の分子機構の解明	竹原徹郎	消化器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝細胞癌の発生と進展におけるオートファジーの意義と制御機構の解析	竹原徹郎	消化器内科	5,460,000	補	独立行政法人日本学術振興会
免疫系を保持した次世代型B型肝炎ウイルス感染小動物モデルの開発とその応用	竹原徹郎	消化器内科	130,000,000	補	厚生労働省
肝細胞のアポトーシスが肝発癌を誘発する機序の解明	巽智秀	消化器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
H. pylori関連胃発癌過程におけるCagAと炎症のクロストークの解析	辻井正彦	消化器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臨床検体からの培養細胞を用いた消化器癌バイオマーカーの開発	辻井正彦	消化器内科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腸炎モデルマウスを用いた大建中湯の腸管免疫系への影響についての検討	疋田隼人	消化器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎の新規薬剤に対する耐性変異ウイルスの存在頻度と治療効果との関連について	平松直樹	消化器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肥満に伴う慢性肝疾患NAFLDにおける免疫の関与とその制御に関する解析	宮城琢也	消化器内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アダプター蛋白質Gab1をターゲットとした新規肝癌分子標的治療法の開発	吉田雄一	消化器内科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンを用いた膵癌のリスク因子解析および新規治療法開発	渡部健二	消化器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
劇症1型糖尿病の成因一患者分析より新たに見出された2分子の病態学的意義の解明	今川彰久	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
低侵襲アプローチによる糖尿病大血管症リスク層別化システムの構築	片上直人	内分泌・代謝内科	3,640,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト膵組織切片分析による2型糖尿病発症過程の膵島形態学的モデルの構築	小澤純二	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
内臓脂肪蓄積病態への腸間膜リンパ節の関与を明らかにする研究	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンの組織修復機構と新規内分泌因子Favineの生理病態的意義の解明	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	5,070,000	補	独立行政法人日本学術振興会
メタボロミクス技術を用いたメタボリックシンドローム/糖尿病/動脈硬化連関の病態解明および新たな診断・治療法の開発	下村伊一郎	内分泌・代謝内科	19,500,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
肥満脂肪組織におけるメタボリックマップの構築～尿酸代謝と脂肪細胞機能異常～	西澤均	内分泌・代謝内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肥満脂肪組織における酸化ストレス亢進とグルタチオン蓄積病態の解明	福原淳範	内分泌・代謝内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肥満におけるアディポサイトカイン異常と病態発症機構の解析	船橋徹	内分泌・代謝内科	16,250,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンの結合蛋白を介する生理作用の分子基盤の解明	前田法一	内分泌・代謝内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
インスリン転写因子Mafkの新規標的遺伝子の解析と膵β細胞再生への応用	松岡孝昭	内分泌・代謝内科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Sema4Aリコンビナト蛋白によるアトピー型気管支喘息への治療応用	井上幸治	呼吸器内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
HER2を標的とした多剤耐性小細胞肺癌の分子標的治療	木島貴志	呼吸器内科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
びまん性肺疾患における疾患特異的自己抗体の検索	木田博	呼吸器内科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アディポネクチンによる全身性疾患としてのCOPDの病態解明と治療応用	武田吉人	呼吸器内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
関節疾患における免疫セマファリンの骨ホメオスタシス調整作用の解明	緒方篤	免疫・アレルギー・内科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
慢性炎症におけるガイドランス因子の病的意義の解明とその制御	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	37,908,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
免疫難病治療のための次世代型抗体医薬開発	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	26,913,000	補	文部科学省
腸内フローラ操作による免疫疾患の新規制御法の開発	熊ノ郷淳	免疫・アレルギー・内科	8,405,043	補	文部科学省
トシリズマブ投与が全身性強皮症に及ぼす影響を与えるか	嶋良仁	免疫・アレルギー・内科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Wnt/decorin経路を介した造血幹細胞制御の解明	一井倫子	血液・腫瘍内科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
BCR-ABL関連造血器腫瘍に対するSTAP-2を標的とした新規治療戦略の確立	織谷健司	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
血小板インテグリン活性化機構の解明と動脈血栓形成に関する検討	柏木浩和	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
AnamorsinとPicotの結合阻害を標的とした新規抗腫瘍剤の開発	齊藤則充	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
免疫細胞における抗アポトーシス分子アナモルシンの役割の解析	柴山浩彦	血液・腫瘍内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
インテグリン活性化制御分子における機能部位の同定と新たな治療法への展開	田所誠司	血液・腫瘍内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
新規表面抗原ESAMを指標とした造血幹細胞の生理的特性の解析と白血病診断への応用	横田貴史	血液・腫瘍内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
睡眠呼吸障害による認知機能悪化のエピジェネティクス解析	伊東範尚	老年・高血圧内科	1,430,000	補 独立行政法人日本学術振興会
アルツハイマー病による全身糖エネルギー代謝への影響	里直行	老年・高血圧内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
糖尿病とアルツハイマー病の相互病態修飾におけるインスリン・シグナリングの役割	里直行	老年・高血圧内科	6,500,000	補 独立行政法人日本学術振興会
サルコペニア肥満における筋ミトコンドリア機能賦活の意義	杉本研	老年・高血圧内科	1,950,000	補 独立行政法人日本学術振興会
$\alpha$ シヌクレインの血管内皮における新規機能及びその臨床的意義の検討	鷹見洋一	老年・高血圧内科	1,820,000	補 独立行政法人日本学術振興会
認知機能進展に対する新規診断法の開発(エピジェネティクスの臨床応用)	竹屋泰	老年・高血圧内科	780,000	補 独立行政法人日本学術振興会
細胞接着阻害因子を標的として新規癌治療薬の開発	谷山義明	老年・高血圧内科	1,560,000	補 独立行政法人日本学術振興会
ペリオスチン制御による炎症関連疾患の新規治療法の開発	谷山義明	老年・高血圧内科	53,850,000	補 文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
糖尿病・脂質異常症に対するDNAワクチンの開発	森下竜一	老年・高血圧内科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)	森下竜一	老年・高血圧内科	819,000	委	農林水産技術会議事務局
農林水産物・食品の機能性等を解析・評価するための基盤技術の開発(タンニン類に着目したリンゴ・茶の生体調節機能の医学的検証と高含有品種育成など活用に関する研究開発)(一般管理費)	森下竜一	老年・高血圧内科	81,000	委	農林水産技術会議事務局
酸化脂質によるアンジオテンシン2受容体活性化の機序の解明と病態生理学的意義の検討	山本浩一	老年・高血圧内科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
地域に生き世界に伸びる総合診療医養成事業～超高齢社会を切り拓くリーダー型高度医療人養成～	樂木宏実	老年・高血圧内科	2,150,000	補	文部科学省
サイトカイン網羅解析による膠原病性肺高血圧・レイノー症状の病態解析	萩原圭祐	漢方医学科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
筋の老化防止用の新規な医薬組成物の開発	萩原圭祐	漢方医学科	1,000,000	補	文部科学省
小児重症心不全に対する小児用補助人工心臓および再生治療を用いた集学的治療の開発	上野高義	心臓血管外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
大動脈解離に対する統括的治療戦略の構築	倉谷徹	心臓血管外科	5,720,000	補	独立行政法人日本学術振興会
再生医療等の安全性確保等のための基準策定に関する研究	澤芳樹	心臓血管外科	19,500,000	補	厚生労働省
カタール国と我が国の医療分野における人材育成支援事業	澤芳樹	心臓血管外科	77,641,902	補	文部科学省
重症心不全に対するmicroRNAを応用した治療法の開発	澤芳樹	心臓血管外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
次世代機能代替技術の研究開発／次世代再生医療技術の研究開発／生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤芳樹	心臓血管外科	2,734,900	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
iPS細胞を用いた心筋再生治療創成拠点	澤芳樹	心臓血管外科	347,100,000	委	独立行政法人科学技術振興機構

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
重症心不全に対する骨格筋芽細胞シート移植による心筋再生治療の実用化研究	澤芳樹	心臓血管外科	36,400,000	補	厚生労働省
心不全心筋組織における「やわらかさ」の意義とその応用による外科的治療法の開発	澤芳樹	心臓血管外科	13,650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞を用いた三次元心筋組織チップ自動作製装置の開発	澤芳樹	心臓血管外科	1,950,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
脳/心血管領域におけるアンメットニーズに対応する創薬研究	澤芳樹	心臓血管外科	123,500,000	補	厚生労働省
小児重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した骨格筋芽細胞シートの開発と実践	澤芳樹	心臓血管外科	119,700,000	補	厚生労働省
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/生体内で自己組織の再生を促すセルフリー型再生デバイスの開発(幹細胞ニッチ制御による自己組織再生型心血管デバイスの基盤開発)	澤芳樹	心臓血管外科	34,186,250	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
ヒト由来の培養促進添加物の開発	澤芳樹	心臓血管外科	4,800,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
遺伝子・細胞・組織工学の国際的技術を集結させた心筋組織の構築と心不全治療への応用	澤芳樹	心臓血管外科	22,677,600	委	独立行政法人日本学術振興会
ハイリスク大動脈弁狭窄症患者に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術の有用性の評価-日本における大動脈弁狭窄症に対する総括的治療戦略の構築-	澤芳樹	心臓血管外科	52,000,000	補	厚生労働省
疾患特異的iPS細胞を用いた創薬スクリーニングシステムの開発	澤芳樹	心臓血管外科	49,920,000	補	厚生労働省
iPS細胞由来アロ心筋細胞移植に対する免疫寛容誘導法の開発	福嶋五月	心臓血管外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
重症拡張型心筋症患者の生命予後改善・人工心臓離脱を目指した新規オキシム誘導体徐放性製剤による体内誘導型再生治療法の開発と実践	宮川繁	心臓血管外科	98,400,000	補	厚生労働省
iPS細胞由来心筋細胞を用いた三次元心筋組織構築による次世代心筋再生治療法の開発	宮川繁	心臓血管外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
PPAR-gamma活性化による新たな肺癌分子標的療法の開発	井上匡美	呼吸器外科	2,860,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肺移植後の拒絶反応抑制の治療方法の開発ーIL-6増幅回路の遮断を用いた治療戦略ー	奥村明之進	呼吸器外科	3,510,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺胞再生サイトカインを産生する細胞シートの開発、および肺気腫に対する治療への応用	奥村明之進	呼吸器外科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
水素ガスを用いた肺移植後虚血再灌流傷害への新たな治療法の開発	川村知裕	呼吸器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌微小環境を標的とした肺癌治療の開発	新谷康	呼吸器外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺癌症例における血中遊離癌細胞の転移形成能獲得メカニズムの解明	舟木壮一郎	呼吸器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新しいIPS干渉法による膵β細胞誘導因子の同定	石井秀始	消化器外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
革新的新規治療法開発のための基盤創出ー消化器癌幹細胞と宿主細胞の再プログラムー	石井秀始	消化器外科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
嫌気性微小環境に応答する難治性消化器癌幹細胞の新しい転写制御機構の解明と創薬応用	石井秀始	消化器外科	3,770,000	補	独立行政法人日本学術振興会
エピゲノム創薬(癌幹細胞のダイナミック制御に関わるヒストンH3K4脱メチル化酵素Jarid1B阻害剤のアカデミア創薬から導出まで)	石井秀始	消化器外科	6,500,000	補	文部科学省
数理的統計的解析による難治性癌幹細胞システムの解明と創薬応用	石井秀始	消化器外科	2,860,000	補	独立行政法人日本学術振興会
難治性消化器癌の革新的なRNA創薬・治療の実現化	石井秀始	消化器外科	19,999,200	委	独立行政法人医薬基盤研究所
大規模災害における後遺障害に対する統合医療的戦略	伊藤壽記	消化器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
低酸素誘導因子による癌幹細胞制御システムの解明と新規治ターゲットの検索	植村守	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺癌の癌細胞-癌間質におけるmicroRNA相互作用の解明と薬剤耐性克服法の構築	江口英利	消化器外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
臨床臍島移植の成績を改善するための次世代ストラテジーを用いた包括的研究	川本弘一	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
治療抵抗性癌幹細胞の酸化ストレス応答を担うNrf2機能の解明と創薬シーズの開発	工藤敏啓	消化器外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
胃癌患者末梢血中の癌細胞由来浮遊DNA検出法の確立	黒川幸典	消化器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
消化器癌幹細胞を標的としたエピゲノム創薬の実現	佐藤太郎	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
食道癌周術期管理におけるグレリンのサイトカイン分泌抑制作用効果の検討	瀧口修司	消化器外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
手術創の軽減に寄与する機器および手術手技の開発に関する研究	竹政伊知朗	消化器外科	400,000	委	国立がん研究センター
大腸がんの予後・治療応答性予測診断システムの臨床応用と実用化の研究	竹政伊知朗	消化器外科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌細胞が特異的に生成するシェディング産物の網羅的解析による癌の早期診断システムの開発における尿中バイオマーカー(タンパク質断片)の探索及び胃がん試料と臨床情報の収集	土岐祐一郎	消化器外科	1,500,000	委	宮崎大学
消化器癌集学的治療におけるグレリンによる包括的支持療法の検討	土岐祐一郎	消化器外科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
基礎医学研究者育成プログラム	土岐祐一郎	消化器外科	26,922,000	委	東京大学
消化器癌の末梢遊離癌細胞の精製と培養	西村潤一	消化器外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腸管上皮細胞に発現するLGR5のスプライシングバリエントの解析	西村潤一	消化器外科	4,290,000	補	独立行政法人日本学術振興会
OSNA法を用いた直腸癌側方リンパ節郭清省略への応用	畑泰司	消化器外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
術後補助化学療法におけるフッ化ピリミジン系薬剤の有用性に関する比較臨床試験(治癒切除直腸癌に対するUFT療法とTS-1療法との比較検討)	畑泰司	消化器外科	13,650	委	財団法人がん集学的治療研究財団

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
食道癌化学療法耐性におけるエクソソームの機能解明	宮田博志	消化器外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
難治性消化器癌の革新的なRNA創薬・治療の実現化	森正樹	消化器外科	20,001,800	委	独立行政法人医薬基盤研究所
固形がん幹細胞を標的とした革新的治療法の開発に関する研究	森正樹	消化器外科	150,000,000	補	厚生労働省
大腸発がん関連遺伝子多型に注目したがん進展機構の解明と治療法の研究	森正樹	消化器外科	5,000,000	委	東京医科歯科大学
高精度の分子遺伝学的評価による食道癌治療成績向上のための包括的研究	森正樹	消化器外科	31,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌と生体環境のマイクロコスモスとマクロコスモス	山本浩文	消化器外科	5,200,000	補	独立行政法人日本学術振興会
セツキシマブ抵抗性難治性大腸癌に対するMicro RNA治療	山本浩文	消化器外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
乳癌の個別化治療を目指した新しい感受性診断	金昇晋	乳腺・内分泌外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
BRCA1/BRCA2変異保因者に対する乳がん早期発見・発症予防に関する研究	下村淳	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
マイクロアレイを用いた乳癌腋窩リンパ節転移予測法の開発	直居靖人	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小腸移植における補体制御による新たな免疫抑制療法の開発	上野豪久	小児外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児横紋筋肉腫における癌幹細胞の同定と免疫療法に向けた基礎的研究	上原秀一郎	小児外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
横紋筋肉腫に対するヘッジホグシグナルの阻害による増殖・浸潤・転移抑制に関する研究	大植孝治	小児外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児悪性固形腫瘍に対する抗アポトーシス分子サブイピンを標的とした分子標的治療	奈良啓悟	小児外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞外マトリックスを介した眼科疾患メカニズムの 解明と失明予防法の研究	生野恭司	眼科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生体共焦点顕微鏡を用いた角膜輪部の観察による 角膜上皮幹細胞ニッチに関する研究	大家義則	眼科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
加齢黄斑変性に対する発症機序に基づく新規薬剤 治療と1次予防の開発	瓶井資弘	眼科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用を目指した角膜上皮幹細胞のex vivo e xpansion法の開発	川崎諭	眼科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自己集合性ペプチドを用いた新規徐放剤の開発	坂口裕和	眼科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
フェムトセカンドレーザーを用いた無縫合角膜移植 の開発	相馬剛至	眼科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
角膜上皮バリア機能の詳細な解析とその再生医療 への応用	辻川元一	眼科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
角膜上皮幹細胞疲弊症に対する自己培養口腔粘 膜上皮細胞シート移植の多施設共同臨床試験	西田幸二	眼科	40,000,000	補	文部科学省
IT融合による新社会システムの開発・実証プロジェ クト/ヘルスケア分野/角膜再生医療の普及のため の診断・治療IT支援システム開発・ビジネスモデル	西田幸二	眼科	36,875,900	委	新エネルギー・産業 技術総合開 発機構 (NEDO)
iPS細胞を用いた角膜再生治療法の開発	西田幸二	眼科	169,100,000	委	独立行政法 人科学技術 振興機構
iPS細胞を用いた緑内障等メカノストレス性眼疾患 の病態解明と治療開発	西田幸二	眼科	15,730,000	補	独立行政法 人日本学術 振興会
環境・医療分野の国際研究開発・実証プロジェクト ／先進的医療機器システムの国際研究開発及び 実証／再生・細胞医療技術および製造インフラ最適 化の研究開発	西田幸二	眼科	15,000,000	委	新エネルギー・産業 技術総合開 発機構 (NEDO)
次世代医療機器評価指標作成事業(再生医療分 野)	西田幸二	眼科	4,000,000	委	国立医薬品 食品衛生研 究所
iPS細胞等の安定供給と臨床利用のための基盤整 備	西田幸二	眼科	19,500,000	補	厚生労働省

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
標的指向性・光感受性リポソームの薬物動態解析	橋田徳康	眼科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
電気刺激による統合的視覚回復の研究	不二門尚	眼科	6,630,000	補	独立行政法人日本学術振興会
読書が可能な人工視覚システム(脈絡膜上—経網膜電気刺激(STS)法)の実用化	不二門尚	眼科	37,050,000	補	厚生労働省
広域・多人数調査のための視線解析システムの研究開発	不二門尚	眼科	80,600	委	独立行政法人科学技術振興機構
毛様体神経刺激による調節可能眼内レンズの制御	不二門尚	眼科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
視覚の質と生体力学を考慮した角膜手術法開発のための基礎的研究	前田直之	眼科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
緑内障モデルにおける放射光微小血管造影法による球後眼動脈微小血管の描出	松下賢治	眼科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
難治性視神経症に対する電気刺激治療の発展的研究	森本壮	眼科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍体積と導入化学療法に基づく下咽頭癌の個別化治療 —その予後因子の網羅的検索—	猪原秀典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	9,100,000	補	独立行政法人日本学術振興会
異常眼球運動解析による中枢性疾患と末梢性疾患の鑑別	今井貴夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
甲状腺におけるガレクチン-3の過剰発現は甲状腺癌を誘発するのか？	中原晋	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Wnt経路に基づいた老人性内耳障害の解明	森鼻哲生	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脂肪細胞分泌因子アディポネクチン制御による新規関節リウマチ治療法の確立	蛭名耕介	整形外科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
BMP骨組織再生におけるテリパラチド併用効果の検討	海渡貴司	整形外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
股関節疾患の病態と治療に関するkinematics・kineticsの解明	坂井孝司	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臼蓋形成不全症とミトコンドリアDNAハプロタイプの関連の解明	菅野伸彦	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
C1q活性抑制による新規関節リウマチ治療薬の開発	富田哲也	整形外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規マウス軟部肉腫高肺転移株の樹立と肺転移再現動物モデルの開発	中紀文	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト運動器細胞・間葉系幹細胞の三次元力学刺激応答におけるシグナル伝達機構の解明	中田研	整形外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
周期的屈伸デバイスを用いた膝モーションイメージングシステムの開発	西井孝	整形外科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
超高磁場MRIを用いた中枢性・局所性関節疼痛機序の解明と非侵襲性評価システム開発	西井孝	整形外科	7,410,000	補	独立行政法人日本学術振興会
膝関節のin vivo四次元動態解析:正常膝、靭帯損傷膝及び靭帯再建膝	前達雄	整形外科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新世代手術デバイスによる超高精度四肢矯正方法の開発	村瀬剛	整形外科	4,550,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ティッシュエンジニアリングによるiPS細胞由来軟骨細胞を用いた重度軟骨損傷治療法の開発	吉川秀樹	整形外科	10,000,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
誘導軟骨前駆細胞の組織形成能および腫瘍形成能の解析	吉川秀樹	整形外科	2,470,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
次世代機能代替技術の研究開発/次世代再生医療技術の研究開発/少量の細胞により生体内で自己組織の再生を促す自律成熟型再生デバイスの開発(生体内で自律的に成熟する臓器再生デバイスのための基盤研究開発)	吉川秀樹	整形外科	5,759,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
次世代医療機器評価指標作成事業(三次元積層インプラント分野)	吉川秀樹	整形外科	4,500,000	委	国立医薬品食品衛生研究所
患者別に機能発現する階層構造インプラント	吉川秀樹	整形外科	52,402,986	補	文部科学省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
細胞を用いた成長軟骨帯の再生	吉川秀樹	整形外科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒト幹細胞産業応用促進基盤技術開発／ヒト幹細胞実用化に向けた評価基盤技術開発／ヒト幹細胞の安定的な培養・保存技術の研究開発	吉川秀樹	整形外科	12,592,000	委	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
ヒト運動器細胞三次元組織の力学刺激応答におけるシグナルカスケード	米谷泰一	整形外科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
薬剤を用いた薬疹モデルマウス樹立の研究	小豆澤宏明	皮膚科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮膚再生機構の解明—毛包細胞内シグナル伝達機構の解析—	板見智	皮膚科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
細胞膜—核内シャトル分子Hic—5の皮膚創傷治癒における役割の解明	乾重樹	皮膚科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
コレステロールと11βHSD1の誘導剤による新規外用薬の開発研究	片山一郎	皮膚科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
アレルギー疾患のダイナミックな変化とその背景因子の横断的解析による医療経済の改善効果に関する調査研究	片山一郎	皮膚科	14,625,000	補	厚生労働省
癌特異的アポトーシスを誘導する革新的分子標的薬による難治性皮膚癌に対する治療薬の医師主導臨床試験による実用化開発	片山一郎	皮膚科	166,900,000	補	厚生労働省
精神神経病変と色素異常症発症に共通のmTORを介したオートファジー機構の解明	金田眞理	皮膚科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
結節性硬化症の皮膚病変に対する有効で安全性の高い治療薬の開発と実用化	金田眞理	皮膚科	163,800,000	補	厚生労働省
新規脳梗塞治療薬を目指した機能的組織再生促進医薬の開発	玉井克人	皮膚科	18,850,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
表皮水疱症に対する間葉系幹細胞移植再生医療の実用化研究	玉井克人	皮膚科	49,400,000	補	厚生労働省
骨髄間葉系幹細胞動員ペプチドによる難治性皮膚潰瘍治療薬の開発	玉井克人	皮膚科	3,250,000	委	独立行政法人科学技術振興機構

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
間葉系幹細胞動員因子HMGB1の皮膚恒常性維持機構解明と皮膚難病治療への応用	玉井克人	皮膚科	9,880,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経栄養因子による皮膚感覚増感作用は温もると痒いメカニズムを説明できるか？	室田浩之	皮膚科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症性皮膚疾患におけるケラチノサイトでのclaudin-7の発現解析とその意義	山岡俊文	皮膚科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
移植皮弁知覚の向上を目指して 脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた研究	富田興一	形成外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
幹細胞を融合したオーダーメイド型人工神経の開発	細川亙	形成外科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ポリビニルアルコールを用いた新しい乳房インプラント開発	矢野健二	形成外科	2,600,000	補	独立行政法人日本学術振興会
抗GM-CSF抗体投与によるALS治療の試み	奥野龍禎	神経内科・脳卒中科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
変性疾患における神経細胞、ミクログリアの相互作用、インフラマゾームを中心に	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	5,850,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ヒトでの脳障害後の皮質脊髄路の可塑性制御機構の解明	望月秀樹	神経内科・脳卒中科	13,650,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
動脈硬化危険因子による脳小血管内皮細胞の接着機構障害とその機序の解明	八木田佳樹	神経内科・脳卒中科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
コネクティビティ解析による自閉症スペクトラム障害患者の脳内ネットワーク病態の解明	石井良平	神経科・精神科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
二連発磁気刺激による大脳皮質GABAニューロン機能評価法の精神神経疾患への応用	岩瀬真生	神経科・精神科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Aβ42産生増大と細胞内long Aβのγセクレターゼからの解離促進の関連	大河内正康	神経科・精神科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
既存の大規模コホートデータを活用した網羅的解析の試み	喜多村祐里	神経科・精神科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
プレセリンγセクレターゼによるNICD、アミロイドβなどの産生機構の解析	田上真次	神経科・精神科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前頭側頭型認知症における異常蓄積蛋白の分解・重合制御に関わる新規分子の探索と解析	武田雅俊	神経科・精神科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
革新的技術を活用し、加齢による脳機能低下と異常蛋白蓄積につながる病理過程の上流を追求・解明し、認知症の血液診断マーカーと治療薬を開発する	武田雅俊	神経科・精神科	72,493,000	委	文部科学省
タウ遺伝子変異による結合蛋白との関係の変化と神経変性過程の解析	田中稔久	神経科・精神科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Imaging GWAS: 日本人大脳皮質体積の全ゲノム解析	橋本亮太	神経科・精神科	9,490,000	補	独立行政法人日本学術振興会
霊長類におけるゲノムによる脳機能の多様性の解明	橋本亮太	神経科・精神科	2,000,000	委	大学共同利用機関法人自然科学研究機構
モデル動物など多角的研究方法によるアルツハイマー病関連遺伝子の同定とその機構解明	森原剛史	神経科・精神科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症リスク遺伝子ZNF804Aの中間表現型および機能解析	山森英長	神経科・精神科	2,990,000	補	独立行政法人日本学術振興会
特発性正常圧水頭症に対する手術効果の予測に関する研究	吉山顕次	神経科・精神科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
脊髄損傷患者に対するリハビリテーションを併用した神経再生法の開発	岩月幸一	脳神経外科	13,200,000	委	筑波大学
移植治療後の慢性期完全脊髄損傷患者のリハビリテーションと脳機能再構成および脊髄再生との関連性についての評価法の開発	岩月幸一	脳神経外科	8,489,000	補	厚生労働省
脊髄再生に必要な血管新生を誘導する多種細胞組み合わせ移植	岩月幸一	脳神経外科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経膠腫幹細胞が腫瘍内免疫およびWT1ペプチドワクチン療法に与える影響の解明	香川尚己	脳神経外科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性脳腫瘍に対するWT1ペプチドワクチン療法の予後予測因子と免疫逃避に関する研究	橋本直哉	脳神経外科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ブレイン・マシン・インターフェースによる運動・コミュニケーション機能支援装置の臨床研究	平田雅之	脳神経外科	39,000,000	補	厚生労働省
領野間ネットワークにもとづいたブレイン・マシン・インターフェースによる機能再建	平田雅之	脳神経外科	4,940,000	補	独立行政法人日本学術振興会
皮質脳波を用いたワイヤレス体内埋込型運動・意思伝達機能補填装置	吉峰俊樹	脳神経外科	12,000,000	補	文部科学省
BMIを用いた運動・コミュニケーション機能の代替	吉峰俊樹	脳神経外科	98,850,000	委	文部科学省
大動脈ステント手術後急性腎障害発生メカニズムおよび早期治療効果の検討	植田一吉	麻酔科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
「痛み」に関する教育と情報提供システムの構築に関する研究	柴田政彦	麻酔科	5,200,000	補	厚生労働省
低酸素傷害に対する麻酔薬の神経保護—バイオイメージングによる残存神経細胞の解析	澁田達史	麻酔科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
神経因性疼痛におけるDNA後修飾の役割の解明	中江文	麻酔科	3,130,000	補	独立行政法人日本学術振興会
誘発脳波に基づく客観的かつ高精度な疼痛の有無と強弱の判別法の開発	中江文	麻酔科	1,690,000	委	独立行政法人科学技術振興機構
動物の痛みモデルの画像を用いた新しい評価法	中江文	麻酔科	934,000	補	文部科学省
プロポフォール樹状細胞刺激作用の生体防御、免疫病理への影響	藤野裕士	麻酔科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
卵巣癌腹膜播種を制御する腹水中骨髄由来細胞の同定とその役割の検討	磯部晶	産科婦人科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iTRAQ法による子宮体癌化学療法抵抗性に関わる蛋白質の同定とメカニズムの解析	上田豊	産科婦人科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新生児脳障害に対する臍帯血移植の実現をめざして—有効な移植法とメカニズムの解析—	金川武司	産科婦人科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
吹田、豊中地域における先天性心疾患の超音波スクリーニング精度の向上に関わる因子の検討	金川武司	産科婦人科	1,000,000	委	国立循環器病研究センター
ヒト病態類似モデルマウス作成を介した妊娠高血圧症候群の予知・予防・治療戦略開発	木村正	産科婦人科	11,570,000	補	独立行政法人日本学術振興会
不妊治療効率向上を目的とした低侵襲子宮着床能判定装置の開発	木村正	産科婦人科	7,321,240	委	経済産業省
In vitro盤構築モデルの作成とそれによる胎盤剥離の分子機構の網羅的解析	木村正	産科婦人科	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
子宮体癌に対する腹腔鏡下近赤外イメージングによるセンチネルリンパ節生検	小林栄仁	産科婦人科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
癌周辺微小環境を忠実に再現した新しい腹膜播種実験系の開発とその可能性の検討	澤田健二郎	産科婦人科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
mTORC2をターゲットとした卵巣癌の分子標的治療・予防の可能性の検討	馬淵誠士	産科婦人科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ナノマテリアルを用いた胎盤形成異常モデルの確立をめざして	味村和哉	産科婦人科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新しい細胞塊培養による婦人科癌の抗癌剤感受性試験の確立と応用	吉野潔	産科婦人科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ダウン症における成長障害の発症機序 iPS細胞を用いた検討—	荒堀仁美	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
CNP/NPR—B/CGMPシグナル系に焦点を当てた成長障害の病態・治療法の検討	大藺恵一	小児科	4,680,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ビスフォスフォネートによる骨細胞機能制御機構の解明	北岡太一	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ダウン症候群の多様な症状を引き起こす21番染色体の病態責任領域の同定	北畠康司	小児科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
染色体異常症候群における合併症の発症メカニズムの解明	北畠康司	小児科	33,800,000	委	独立行政法人科学技術振興機構

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
cGMP恒常産生ナトリウム利尿ペプチド受容体を用いた肺高血圧治療薬開発	小垣滋豊	小児科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肝臓における周産期の糖・脂質代謝ダイナミズムの検討	近藤宏樹	小児科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ライソゾーム病におけるオートファジーの病態解明と治療薬スクリーニング法の開発研究	酒井規夫	小児科	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害における聴覚処理過程に関する神経基盤研究	下野九理子	小児科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
オキシトシン点鼻による自閉性障害治療法の開発	谷池雅子	小児科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
発達障害児(者)支援事業	谷池雅子	小児科	9,395,000	委	堺市
新生児低酸素性虚血性脳症における脳血管内皮細胞保護療法の有効性の検討	谷口英俊	小児科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
下垂体で機能する甲状腺ホルモントランスポーターの同定と機能解析	難波範行	小児科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児血液腫瘍マーカー中央診断の推進と臨床的有用性の検討	橋井佳子	小児科	1,000,000	委	独立行政法人国立成育医療研究センター
同種造血幹細胞移植後のWT1ペプチドワクチン療法における分子機構の解明とその制御	橋井佳子	小児科	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
間葉系幹細胞を用いた小児難治性白血病に対する腫瘍選択的アポトーシス誘導効果	宮村能子	小児科	910,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児がん経験者の性腺機能と妊孕性維持に関する研究	三善陽子	小児科	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
幼弱脳におけるプロスタグランジンD2を介したマイクログリア-神経相関の解明	毛利育子	小児科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
転移性腎細胞癌における診断、治療選択に有用なバイオマーカーの開発	植村元秀	泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
補体制御因子CD46のT細胞関連型拒絶反応におけるメカニズムの解明と治療への応用	角田洋一	泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
生殖細胞特異的に反応するTRA98の抗原遺伝子の同定とその解析	木内寛	泌尿器科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炎症による前立腺発癌機構に関する研究	野々村祝夫	泌尿器科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前立腺癌浸潤・転移における骨髄由来細胞の役割の検討	藤田和利	泌尿器科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
球状ビーズの血管内動態と最適化に関する検討：血管塞栓術のパラダイムシフトに向けて	大須賀慶悟	放射線診断科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
経血管治療IVRに関する研究	大須賀慶悟	放射線診断科	1,000,000	委	国立がん研究センター
バイオマーカーとして核磁気共鳴画像を用いた非アルコール性脂肪性肝炎の病態解析	大西裕満	放射線診断科	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
核磁気共鳴画像を用いた生体内鉄沈着の測定	大西裕満	放射線診断科	969,960	補	文部科学省
画像診断に対する多施設共同臨床試験の体制確立に関する研究	富山憲幸	放射線診断科	1,000,000	委	国立がん研究センター
呼吸器悪性腫瘍における画像抽出方法の考案や最適化に関する研究	富山憲幸	放射線診断科	300,000	委	国立がん研究センター
高分子多糖類を用いた新たな塞栓物質の開発と薬剤溶出能の検討	東原大樹	放射線診断科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
DNAマイクロアレイを用いた肝動脈化学塞栓療法後の網羅的発現遺伝子解析	前田登	放射線診断科	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
肺癌に対する化学療法の効果予測と判定の為に腫瘍血流イメージング法の確立	梁川雅弘	放射線診断科	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
頸動脈ステント留置術後の再狭窄に対するシロスタゾールの効果に関する多施設共同無作為比較試験(CAS-CARE)	渡邊嘉之	放射線診断科	1,023,750	委	財団法人先端医療振興財団

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MRI-CFD融合解析を用いた脳動脈瘤発生機序、成長予測に関する研究	渡邊嘉之	放射線診断科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
沖縄県における難治性悪性腫瘍の地域的特性の解明と新規治療法の開発に関する整理事業	小川和彦	放射線治療科	2,000,000	委	琉球大学
低酸素腫瘍細胞の酸素化直後における放射線治療効果を規定する機序の解明	小川和彦	放射線治療科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
320列CTとエアバックシステムによる、新規呼吸同期体幹部放射線照射法の開発	鈴木修	放射線治療科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
放射線生存曲線パラメータを規定する分子生物学的因子の包括的スクリーニング	瀬尾雄二	放射線治療科	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
遠隔放射線治療の総合パッケージのモデルシステム作成	吉岡靖生	放射線治療科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性腫瘍の放射線治療効率を高める新たなPET画像診断法の開発	礪橋佳也子	核医学診療科	3,120,000	補	独立行政法人日本学術振興会
難治性てんかんの発作焦点検出のための画像診断法の開発	加藤弘樹	核医学診療科	520,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ホウ素中性子捕捉療法におけるホウ素化合物の組織内濃度の定量測定	下瀬川恵久	核医学診療科	1,430,000	補	独立行政法人日本学術振興会
炭素11標識メチオニンによる悪性脳腫瘍のPET診断	畑澤順	核医学診療科	3,500,000	委	国立大学法人北海道大学
ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)及びがん診断に不可欠なPETプローブ・18FBPAの合成機器の開発	畑澤順	核医学診療科	4,384,327	委	公立大学法人大阪府立大学
腓アセチルコリン代謝のPETによる研究	畑澤順	核医学診療科	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医薬品の体内動態の種差: PETマイクロドーズ臨床試験による研究	畑澤順	核医学診療科	10,400,000	補	独立行政法人日本学術振興会
妊娠高血圧症候群の成立機序の解明と、それに基づく予防方法、治療方法の開発	熊澤恵一	産科婦人科	7,930,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
呼吸相での換気補助が可能な人工呼吸法の開発	内山昭則	集中治療部	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ハロペリドールによる樹状細胞のレドックス平衡を介した免疫制御	柏庸三	集中治療部	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍幹細胞の観点からみた新たな悪性リンパ腫の層別化	池田純一郎	病理診断科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
腫瘍幹細胞の観点に立脚したプラズマ技術を用いた新たな腫瘍制御	池田純一郎	病理診断科	3,380,000	補	独立行政法人日本学術振興会
Sema4Aにおける点突然変異と網膜色素変性症	野島聡	病理診断科	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会
NK/T細胞リンパ腫のプロテオーム解析による病態解明と臨床応用	本間圭一郎	病理診断科	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
研究課題名なし	森井英一	病理診断科	5,688,515	補	文部科学省
各種腫瘍における腫瘍幹細胞動態を制御する因子に関する解析	森井英一	病理診断科	1,560,000	補	独立行政法人日本学術振興会
lymphoplasmacytic lymphomaでの腫瘍幹細胞動態解析	和田直樹	病理診断科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
行為分解木による医療プロセスのモデリングに関する研究	武田理宏	医療情報部	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臨床研究・治験のIT化推進のための実施プラン策定に関する研究	松村泰志	医療情報部	20,000,000	補	厚生労働省
血液検査結果によるがん早期診断支援システムの構築	松村泰志	医療情報部	2,730,000	補	独立行政法人日本学術振興会
医用画像保管システムの効率的な画像保管および閲覧を実現するログ解析手法の研究	三原直樹	医療情報部	3,770,000	補	独立行政法人日本学術振興会
熱中症に対する新たな臓器障害戦略:遊離核酸標的治療の有効性	小倉裕司	高度救命救急センター	1,300,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
侵襲時再生治療に関する研究:細胞移植法の確立と免疫応答制御メカニズムの解明	小倉裕司	高度救命救急センター	19,110,000	補	独立行政法人日本学術振興会
重症循環器疾患等に関する医療内容の評価に資するデータレジストリシステムの構築	嶋津岳士	高度救命救急センター	21,300,000	補	厚生労働省
地理情報システムを用いた重症傷病者の発生日点と病院前診療の選択に関する研究	中川雄公	高度救命救急センター	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
タイ国における多剤耐性アシネトバクター・パウマニを中心とする院内感染制御支援	朝野和典	感染制御部	4,160,000	補	独立行政法人日本学術振興会
論文博士号取得希望者に対する支援事業(KERDSIN, Anusak)	朝野和典	感染制御部	1,394,348	委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症・多臓器不全における内在性幹細胞機能障害の解析と細胞移植再生治療の開発	松本直也	高度救命救急センター	4,550,000	補	独立行政法人日本学術振興会
シリアスゲームを取り入れた卒前医療安全教育の教材開発	中島和江	中央クオリティマネジメント部	3,946,120	補	独立行政法人日本学術振興会
大型骨欠損に対する次世代骨再生技術の開発	名井陽	未来医療センター	5,850,000	補	独立行政法人日本学術振興会
「ネッツ」の制御による重症患者に対する新しい治療戦略の提案	松本直也	高度救命救急センター	260,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ミトコンドリアを起点とする慢性炎症機序の解明と心不全治療への応用	彦惣俊吾	循環器内科	6,956,731	補	独立行政法人日本学術振興会
重症インフルエンザ肺炎における過剰免疫反応(サイトカインストーム)調節の可能性	関雅文	感染制御部	1,427,164	補	独立行政法人日本学術振興会
疼痛の慢性化における注意機能のかかわり	萩平哲	集中治療部	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会
TORC及びHDAC制御機構の解明と新規低分子化合物による神経疾患治療法の開発	佐々木勉	脳卒中センター	5,070,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規実験系による血栓形成の制御分子の解析	富山佳昭	輸血部	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
卵巣癌細胞が分泌する胎盤増殖因子に焦点をあてた新規抗血管新生治療の可能性の検討	坂田正博	総合周産期母子医療センター	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いた拡張型心筋症の遺伝子解析	平将生	卒後教育開発センター	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
臓器移植後急性腎障害の早期発見および早期回復—新しい指標を用いての検討—	井口直也	集中治療部	2,339,923	補	独立行政法人日本学術振興会
初代培養細胞塊をもちいた子宮肉腫の新しい治療戦略の樹立	木村敏啓	総合周産期母子医療センター	1,820,000	補	独立行政法人日本学術振興会
前庭神経系に発現するセロトニン受容体3の機能解析	滝本泰光	耳鼻咽喉科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
ガレクチン-3による腫瘍の免疫回避	花本敦	耳鼻咽喉科	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
試験薬の直接的ベネフィットがない早期探索的臨床試験の倫理に関する研究	山本洋一	臨床試験部門	650,000	補	独立行政法人日本学術振興会
シスタチンCが腎臓や種々の臓器に及ぼす影響の検討	岩谷博次	血液浄化部	2,080,000	補	独立行政法人日本学術振興会
患者由来iPS細胞を用いた骨髄異形成症候群における骨髄微小環境の役割に関する解析	江副幸子	未来医療センター	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
骨髄系造血器腫瘍からの樹状細胞の分化とその意義の解析	水木満佐央	化学療法部	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
血管手術前後の各血管の血流量測定による脳内フローダイナミクスの解明	田中壽	放射線部	780,000	補	独立行政法人日本学術振興会
PETおよびMRIを用いた腫瘍内低血流域の特性評価	巽光朗	放射線部	1,040,000	補	独立行政法人日本学術振興会
悪性胸腺上皮性腫瘍のpodoplanin発現に基づいた集学的治療の開発	南正人	手術部	130,000	補	独立行政法人日本学術振興会
新規自己組織由来オリゴデンドロサイト/シュワン前駆細胞による再生治療法の開発	大西諭一郎	脳神経外科	1,690,000	補	独立行政法人日本学術振興会

小計

14

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ミダゾラムの樹状細胞に対する分子免疫学的作用メカニズムの解明	大田典之	集中治療部	1,950,000	補	独立行政法人日本学術振興会
自殺未遂者の二次予防における病診連携強化及び医療ソーシャルワーカー介入の有効性	前川佳敬	保健医療福祉ネットワーク部	1,170,000	補	独立行政法人日本学術振興会
膵発癌における細胞死機構の解明	重川稔	内視鏡センター	2,210,000	補	独立行政法人日本学術振興会
経カテーテル的大動脈弁植込み術におけるONO-1301の弁周囲逆流抑制効果の検討	前田孝一	ハートセンター	2,340,000	補	独立行政法人日本学術振興会
iTRAQ法による網羅的膜蛋白質の解析を用いた子宮平滑筋肉腫の新しい治療法の樹立	松崎慎哉	総合周産期母子医療センター	2,470,000	補	独立行政法人日本学術振興会
「ネッツ」の制御による重症患者に対する新しい治療戦略の提案	関雅文	感染制御部	260,000	補	独立行政法人日本学術振興会
小児重症拡張型心筋症へのbridge-to-transplantation/recoveryを目指した骨格筋芽細胞シートの開発と実践	澤芳樹	心臓血管外科	24,196,369	補	厚生労働省
ハイリスク大動脈弁狭窄症患者に対する経カテーテル的大動脈弁植込み術の有用性の評価ー日本における大動脈弁狭窄症に対する総括的治療戦略の構築ー	澤芳樹	心臓血管外科	28,492,918	補	厚生労働省
重症心不全に対する骨格筋芽細胞シート移植による心筋再生治療の実用化研究	澤芳樹	心臓血管外科	2,377,860	補	厚生労働省
血液凝固異常症に関する調査研究	富山佳昭	輸血部	5,500,000	補	厚生労働省
治験の実施に関する研究[小児用補助人工心臓]	澤芳樹	心臓血管外科	1,400,000	補	厚生労働省
治験の実施に関する研究[ブリリアントブルーG250]	西田幸二	眼科	1,600,000	補	厚生労働省
多剤耐性結核に対する新規治療用DNAワクチンの開発・実用化に関する研究	朝野和典	感染制御部	1,000,000	補	厚生労働省
慢性特発性血小板減少性紫斑病(ITP)に対するリツキシマブの有効性と安全性の検討を目的とした第Ⅲ相オープンラベル試験	富山佳昭	輸血部	500,000	補	厚生労働省

小計

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
関節鏡視下自己骨髄間葉系幹細胞移植による関節軟骨欠損修復—多施設共同、非盲検、ランダム化、並行比較試験	名井陽	未来医療センター	200,000	補	厚生労働省
TR実践のための戦略的高機能拠点整備	澤芳樹	未来医療センター	144,194,214	補	文部科学省
角膜上皮幹細胞疲弊症に対する自己培養口腔粘膜上皮細胞シート移植の多施設共同臨床試験	澤芳樹	未来医療センター	13,790,360	補	文部科学省
新規前立腺癌治療薬の医師主導治験の推進	澤芳樹	未来医療センター	11,900,000	補	文部科学省
皮質脳波を用いたワイヤレス体内埋込型運動・意思伝達機能補填装置	澤芳樹	未来医療センター	2,500,000	補	文部科学省
卵巣癌を対象とした分子標的治療薬BK-UMの臨床開発	名井陽	未来医療センター	13,600,000	補	文部科学省
0159-0073医療サービスの継続性を担保する電子カルテ秘密分散バックアップ技術の研究開発	松村泰志	医療情報部	4,569,474	委	総務省
平成25年度再生医療等産業化促進事業(大阪大学、重症心不全)	澤芳樹	心臓血管外科	209,067,712	委	経済産業省
治療効果判定におけるPET/CTの標準化に関する研究(25-A-13)	翼光朗	放射線部	800,000	委	独立行政法人国立がん研究センター
研究協力『上皮性卵巣癌・卵管癌・腹膜原発癌に対するPaclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎点滴静注投与対Paclitaxel毎週点滴静注＋Carboplatin 3週毎腹腔内投与のランダム化第Ⅱ／Ⅲ相試験』	木村正	産科婦人科	100,000	委	学校法人埼玉医科大学
(Prep-02/JSAP-05) 膵癌術前化学療法としてのGemcitabine+S-1療法(GS療法)の第Ⅱ／Ⅲ相臨床試験(Prep-02/JSAP-05)	永野浩昭	消化器外科	20,000	委	特定非営利活動法人日本臨床研究支援ユニット

小計

11

合計 360件

(注 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	今井敦子、他	循環器内科	Comprehensive metagenomic approach for detecting causative microorganisms in culture-negative infective endocarditis.	Int J Cardiol. 2014 Mar 15;172(2):e288-9.
2	木岡秀隆、他	循環器内科	Evaluation of intra-mitochondrial ATP levels identifies G0/G1 switch gene 2 as a positive regulator of oxidative phosphorylation.	Proc. Natl. Acad. Sci. USA. 2014 Jan 7;111(1):273-8.
3	T. Oka, et al.	循環器内科	Angiogenesis and cardiac hypertrophy: maintenance of cardiac function and causative roles in heart failure	Circ Res. 2014; 114(3):565-71.
4	谷口 達典	循環器内科	Switching from carvedilol to bisoprolol ameliorates adverse effects in heart failure patients with dizziness or hypotension.	J Cardiol. 2013 Jun;61(6):417-22
5	南口 仁	循環器内科	Usefulness of overlapping of the E and A waves of the transmitral flow as a predictor of responders to cardiac resynchronization therapy.	Am J Cardiol. 2013 Jun 1;111(11):1613-8
6	Nakaoka Y*, et al	循環器内科	Tocilizumab for the Treatment of the Patients with Refractory Takayasu Arteritis.	International Heart Journal.54, 405-411, 2013
7	Ryota Kawase, et al	循環器内科	Deletion of progranulin exacerbates atherosclerosis in apoE knockout mice	Cardiovasc Res 100(1):125-133, 2013
8	Hamano T, et al	老年・腎臓内科学	Fibroblast growth factor 23 and 25-hydroxyvitamin D levels are associated with estimated glomerular filtration rate decline.	Kidney International 3(5):469-475 2013
9	Kaimori JY, et al	老年・腎臓内科学	Non-invasive magnetic resonance imaging in rats for prediction of the fate of grafted kidneys from cardiac death donors.	PLoS One 8(5):e63573 2013
10	Kamide K, et al	老年・腎臓内科学	GEANE study group; HOMED-BP study group. Genome-wide response to antihypertensive medication using home blood pressure measurements: a pilot study nested within the HOMED-BP study.	Pharmacogenomics 14(14):1709-21 2013
11	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Prognostic impact of regional arterial stiffness in hypertensive patients.	Heart Vessels in press 2014

小計

11

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Carotid plaque score and intima media thickness as predictors of stroke and mortality in hypertensive patients.	Hypertens Res 36(10):902-9 2013
13	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Alteration of vascular function is an important factor in the correlation between visit-to-visit blood pressure variability and cardiovascular disease.	J Hypertens. 31(7):1387-95 2013
14	Kawai T, et al	老年・腎臓内科学	Which indexes are the most important risk factor for cardiorenal events in type 2 diabetic patients?	Circ J. 77(11):2700-1 2013
15	Kimura T, et al	老年・腎臓内科学	Autophagy protects kidney proximal tubule epithelial cells from mitochondrial metabolic stress.	Autophagy 9(11):1876-86 2013
16	Rakugi H, et al	老年・腎臓内科学	Effect of azilsartan versus candesartan on nocturnal blood pressure variation in Japanese patients with essential hypertension.	Blood Press 22 Suppl 1:22-8 2013
17	Rakugi H, et al	老年・腎臓内科学	Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Events Trial Group. Combination therapy for hypertension in patients with CKD: a subanalysis of the Combination Therapy of Hypertension to Prevent Cardiovascular Events trial.	Hypertens Res 36(11):947-58 2013
18	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Hypomagnesemia is a significant predictor of cardiovascular and non-cardiovascular mortality in patients undergoing hemodialysis.	Kidney Int 85(1):174-81 2014
19	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Does hypomagnesemia predict faster progression of nondiabetic chronic kidney disease?	Am J Med 127(2):e13 2014
20	Sakaguchi Y, et al	老年・腎臓内科学	Association of nocturnal hypoxemia with progression of CKD.	Clin J Am Soc Nephrol 8(9):1502-7 2013
21	Shimamoto K, et al	老年・腎臓内科学	Nifedipine controlled-release 40mg b.i.d. in Japanese patients with essential hypertension who responded insufficiently to nifedipine controlled-release 40mg q.d.: a phase III, randomized, double-blind and parallel-group study.	Hypertens Res 37(1):69-75 2014
22	Shimomura A, et al	老年・腎臓内科学	Dietary L-Lysine Prevents Arterial Calcification in Adenine-Induced Uremic Rats.	J Am Soc Nephrol in press 2014
23	Takeda S, et al	老年・腎臓内科学	Increased blood-brain barrier vulnerability to systemic inflammation in an Alzheimer disease mouse model.	Neurobiol Aging. 34(8):2064-70 2013
24	Yamamoto K, et al	老年・腎臓内科学	Response to comment on: Takeda et al. Loss of ACE2 exaggerates high-calorie diet-induced insulin resistance by reduction of GLUT4 in mice.	Diabetes 62(7):e10 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
25	Takabatake Y, et al	老年・腎臓内科学	Autophagy and the kidney: health and disease.	Nephrol Dial Transplant in press 2014
26	Matsui I, et al	老年・腎臓内科学	Retention of fetuin-A in renal tubular lumen protects the kidney from nephrocalcinosis in rats.	The American Journal of Physiology 304(6):F751-60 2013
27	山田涼子	消化器内科	Significance of liver stiffness measurement by acoustic radiation force impulse (ARFI) among hepatitis C patients.	J Med Virol 2014 Feb;86(2):241-7.
28	鎌田佳宏	消化器内科	Serum Fucosylated Haptoglobin as a Novel Diagnostic Biomarker for Predicting Hepatocyte Ballooning and Nonalcoholic Steatohepatitis.	PLoS One. 2013 Jun 21;8(6):e66328
29	日山智史	消化器内科	Narrow band imaging with magnifying endoscopy for Peyer's patches in patients with inflammatory bowel disease.	Digestion. 2013;87(4):269-80
30	林 義人	消化器内科	CagA mediates epigenetic regulation to attenuate let-7 expression in Helicobacter pylori-related carcinogenesis.	Gut. 2013 Nov;62(11):1536-46
31	小瀬嗣子	消化器内科	Using early viral kinetics to predict antiviral outcome in response-guided pegylated interferon plus ribavirin therapy among patients with hepatitis C virus genotype 1.	J Gastroenterol. 2014 Apr;49(4):737-47.
32	入江 陽子	内分泌・代謝内科	The Utility of Carotid Ultrasonography in Identifying Severe Coronary Artery Disease in Asymptomatic Type 2 Diabetic Patients Without History of Coronary Artery Disease.	Diabetes Care. 36(5):1327-1334, 2013
33	小澤 純二	内分泌・代謝内科	Early postprandial glucagon surge affects postprandial glucose levels in obese and non-obese patients with type 2 diabetes.	Endocr J. 60(6): 813-818, 2013
34	小澤 純二	内分泌・代謝内科	Dipeptidyl peptidase-4 inhibitors are effective in Japanese type 2 diabetic patients with sustained endogenous insulin-secreting capacity, a higher body mass index and insulin resistance.	J Diabetes Investig. 4(2):190-194, 2013
35	片上 直人	内分泌・代謝内科	Carotid ultrasonography: A potent tool for better clinical practice in diagnosis of atherosclerosis in diabetic patients.	J Diabetes Investig. 5(1):3-13, 2014
36	木村 武量	内分泌・代謝内科	Pseudohypoglycemia or hyperglycemia caused by interference with self-monitoring blood glucose measurements in anticancer ascorbic acid therapy.	J Diabetes Investig. 4(6):679-680, 2013
37	藤島 裕也	内分泌・代謝内科	Effect of adiponectin on cardiac $\beta$ -catenin signaling pathway under angiotensin II infusion.	Biochem Biophys Res Commun. 444(2):224-229, 2014

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
38	Minami T, et al	Dept. of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine. Laboratory of Immunochemistry, World Premier International Research Center (WPI), Immunology Frontier	Overcoming chemoresistance of small-cell lung cancer through stepwise HER2-targeted antibody-dependent cell-mediated cytotoxicity and VEGF-targeted antiangiogenesis.	Scientific Reports; 3:2669,2013
39	Shima Y, et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases ¥,	Expansion of range of joint motion following treatment of systemic sclerosis with tocilizumab.	Mod Rheumatol. 2013 Mar 1. [Epub ahead of print]
40	Ogata A, et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases	A Phase 3 Noninferiority Study of the Efficacy and Safety of Subcutaneous Tocilizumab Monotherapy Versus Intravenous Tocilizumab Monotherapy in Patients With Rheumatoid Arthritis With an Inadequate Response to Synthetic and/or Biologic DMARDs in Japan (MUSASHI Study).	Arthritis Care Res (Hoboken). 2014;66(3):344-54.
41	Yoshida Y., et al	Department of Respiratory Medicine, Allergy and Rheumatic Diseases, Osaka University Graduate School of Medicine,	Clinical characteristics and incidence of methotrexate-related lymphoproliferative disorders of patients with rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol, 2014 Feb 5. [Epub ahead of print]
42	西村純一、他	血液・腫瘍内科	Genetic variants in C5 and poor response to eculizumab.	New England Journal of Medicine 370(7):632-639, 2014
43	横田貴史、他	血液・腫瘍内科	The Satb1 Protein Directs Hematopoietic Stem Cell Differentiation toward Lymphoid Lineages.	Immunity 38(6):1105-1115, 2013
44	西田純幸、他	免疫・アレルギー内科、癌ワクチン療法学	Wilms tumor gene (WT1) peptide-based cancer vaccine combined with gemcitabine for patients with advanced pancreatic cancer.	Journal of Immunotherapy 37(2):105-14, 2014
45	Keisuke Hagihara, et al.	漢方医学科	Anti-Cytokine Therapy for AA Amyloidosis	DOI: 10.5772/53315.2013.6.12
46	Sawa Y, et al.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University,	Cell sheet technology for heart failure.	Curr Pharm Biotechnol. 14:61(2013)
47	Sawa, Y, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2. Department of Thoracic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan	The first successful heart-lung transplantation in Japan: report of a case.	Surg Today, 43:1461(2013)
48	Sawa, Y	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Current status of myocardial regeneration therapy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg 61:17(2013)
49	Sawa, Y	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Current status of myocardial regeneration rherapy	Personalized Medicine Universe 2:2-6(2013)
50	Fukushima N, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Donor evaluation and management system (medical consultant system) in Japan: experience from 200 consecutive brain-dead organ donation.	Transplant Proc 45:1327-30 (2013)

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
51	Fukushima N, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University Department of Thoracic Surgery, Osaka University, Department of Cardiothoracic Surgery, Tokyo University, Heart Institute Japan, Tokyo Women's	Japanese strategies for maximizing lung availabilities: Experience from 100 consecutive brain dead donors.	Transplant Proc 45:2871-4 (2013)
52	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	A case of everolimus-associated chylothorax in a cardiac transplant recipient	Transplant Proc 45:4545-15(2013)
53	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	How can we predict reversibility of organ dysfunction after implantation of left ventricular assist device? Editorial	Circ J 77:45-46 (2013)
54	Fukushima N.	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	Professional education of procurement transplant coordinators in Japan	J Nursing Education Practice, 3:16-26 (2013)
55	Fukushima S, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University, William Harvey Research Institute, Barts & The London School of Medicine & Dentistry, Queen Mary, University of London,	Choice of cell-delivery route for successful cell transplantation therapy for the heart.	Future Cardiology 9: 215-217 (2013)
56	Watanabe Y, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University; Department of Cardiovascular Surgery, Sakurabashi Watanabe Hospital	Hybrid endovascular repair of a dissecting thoracoabdominal aortic aneurysm with stent-graft implantation through the false lumen	J Vasc Surg 59: 264-7 (2013)
57	Miyagawa S, et al	Department of Cardiovascular Surgery, Graduate School of Medicine, Osaka University	From Bench to Bedside, work in cell-based myocardial regeneration therapy	Journal of Biomedical Science and Engineering, vol.7, Feb 2014
58	Inoue M, et al	呼吸器外科	Clinicopathological characteristics and surgical results of lung cancer patients aged up to 50 years: The Japanese Lung Cancer Registry Study 2004	Lung Cancer, 2014 Feb;83(2):246-51
59	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Experience with thoroscopic resection for mediastinal mature teratoma: a retrospective analysis of 15 patients.	Interact Cardiovasc Thorac Surg., 2013 Apr;16(4):441-4
60	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Pulmonary fibroblasts induce epithelial mesenchymal transition and some characteristics of stem cells	Ann Thorac Surg.2013 Aug;96(2):425-33
61	Shintani Y, et al	呼吸器外科	Pulmonary pleomorphic carcinoma with rapid progression.	Asian Cardiovascular & Thoracic Annals, 2013 Apr;21(2):231-4
62	Kawamura T, et al	呼吸器外科	Hydrogen gas reduces hyperoxic lung injury via the Nrf2 pathway in vivo	American Journal of Physiology - Lung Cellular and Molecular Physiology ,2013 May 15;304(10):L646-56
63	Kanzaki R, et al	呼吸器外科	Bilateral mediastinal neurofibroma of the vagus nerves in a patient with neurofibromatosis type 1.	Ann Thorac Cardiovasc Surg,2013;19(4):293-6

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
64	Kimura T, et al	呼吸器外科	The oncological feasibility and limitations of video-assisted thoracoscopic thymectomy for early-stage thymomas	Eur J Cardiothorac Surg, 2013 Sep;44(3):e214-8
65	Fujiwara A	呼吸器外科	Bilateral ovarian metastasis of non-small cell lung cancer with ALK rearrangement	Lung cancer,2014 Feb;83(2):302-4
66	Nagano H.	消化器外科	Combined IFN- $\alpha$ and 5-FU treatment as a postoperative adjuvant following surgery for hepatocellular carcinoma with portal venous tumor thrombus.	Exp Ther Med,2013,5 (1):3-10
67	Yamamoto H.	消化器外科	Distinct expression of C4.4A in colorectal cancer detected by different antibodies.	Int J Oncol,2013,42(1):197-201
68	Yamamoto H.	消化器外科	Ephrin-A1 mRNA is associated with poor prognosis of colorectal cancer.	Int J Oncol,2013,42(2):549-555
69	Nishimura J.	消化器外科	The possibility of using fibrin-based collagen as an antibiotic delivery system.	Surg Today,2013,43(2):185-190
70	Miyata H.	消化器外科	Larynx-preserving limited resection and free jejunal graft for carcinoma of the cervical esophagus.	World J Surg,2013,37(3):551-557
71	Takiguchi S.	消化器外科	Effect of rikkunshito, a Japanese herbal medicine, on gastrointestinal symptoms and ghrelin levels in gastric cancer patients after gastrectomy.	Gastric Cancer,2013,16(2):167-174
72	Yamamoto H.	消化器外科	Low-dose dacarbazine-doxorubicin therapy against intra-abdominal desmoid tumors.	Oncol Rep,2013,29(5):1751-1755
73	Hata T.	消化器外科	A phase II study evaluating the feasibility of a 5-week cycle of S-1 plus irinotecan (IRIS) in patients with advanced and recurrent colorectal cancer.	Cancer Chemother Pharmacol,2013,71(6):1657-1663
74	Miyazaki Y.	消化器外科	Clinical significance of surgery for gastric submucosal tumours with size enlargement during watchful waiting period.	Eur J Cancer,2013,49(12):2681-2688
75	Tomimaru Y.	消化器外科	The SxxSS motif of T-cell factor-4 isoforms modulates Wnt/ $\beta$ -catenin signal activation in hepatocellular carcinoma cells.	Cancer Lett,2013,336(2):359-369
76	Tomokuni A	消化器外科	Effect of in vivo administration of reprogramming factors in the mouse liver.	Oncol Lett,2013,6(2):323-328

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	Takiguchi S.	消化器外科	Preservation of the Celiac Branch of the Vagus Nerve during Laparoscopy-assisted Distal Gastrectomy: Impact on Postprandial Changes in Ghrelin Secretion.	World J Surg,2013,37(9):2172-2179
78	Marubashi S.	消化器外科	Laparoscopy-assisted hybrid left-side donor hepatectomy.	World J Surg,2013,37(9):2202-2210
79	Mizushima T.	消化器外科	The effects of chemotherapy on primary small bowel cancer: A retrospective multicenter observational study in Japan.	Mol Clin Oncol,2013,1(5):820-824
80	Kurokawa Y.	消化器外科	Which is the optimal response criteria for evaluating preoperative treatment in esophageal cancer: RECIST or histology?	Ann Surg Oncol,2013,20(9):3009-3014
81	Takiguchi S.	消化器外科	Laparoscopy-assisted distal gastrectomy versus open distal gastrectomy. A prospective randomized single-blind study.	World J Surg,2013,37(10):2379-2386
82	Nagano H.	消化器外科	MicroRNA-29a induces resistance to gemcitabine through the Wnt/ $\beta$ -catenin signaling pathway in pancreatic cancer cells.	Int J Oncol,2013,43(4):1066-1072
83	Miyata H.	消化器外科	Relevance of [18F]fluorodeoxyglucose positron emission tomography-positive lymph nodes after neoadjuvant chemotherapy for squamous cell oesophageal cancer.	Br J Surg,2013,100(11):1490-1497
84	Nishida N.	消化器外科	EGFR gets in the way of microRNA biogenesis.	Cell Res,2013,23(10):1157-1158
85	Marubashi S.	消化器外科	Hepatic artery reconstruction in living donor liver transplantation: risk factor analysis of complication and a role of MDCT scan for detecting anastomotic stricture.	World J Surg,2013,37(11):2671-2677
86	Mizushima T.	消化器外科	A Phase II Study of Combined Chemotherapy with 5-Week Cycles of S-1 and CPT-11 plus Bevacizumab in Patients with Metastatic Colon Cancer.	Oncology,2013,85(6):317-322
87	Hata T.	消化器外科	Goshajinkigan oxaliplatin neurotoxicity evaluation (GONE): a phase 2, multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled trial of goshajinkigan to prevent oxaliplatin-induced neuropathy.	Cancer Chemother Pharmacol,2013,72(6):1283-1290
88	Takahashi T.	消化器外科	New findings of kinase switching in gastrointestinal stromal tumor under imatinib using phosphoproteomic analysis.	Int J Cancer,2013,133(11):2737-2743
89	Miyazaki Y.	消化器外科	Clinical significance of ghrelin expression in the gastric mucosa of morbidly obese patients.	World J Surg,2013,37(12):2883-2990

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
90	Mizushima T.	消化器外科	Inhibition of Epithelial Cell Death by Bcl-2 Improved Chronic Colitis in IL-10 KO Mice.	Am J Pathol,2013,183(6):1936-1944
91	Eguchi H.	消化器外科	Preoperative Chemoradiotherapy, Surgery and Adjuvant Therapy for Resectable Pancreatic Cancer.	Hepatogastroenterol,2013,60(124):904-911
92	Tomimaru Y.	消化器外科	Predicting the necessity of autologous blood collection and storage before surgery for hepatocellular carcinoma.	J Surg Oncol,2013,108(7):486-491
93	Tomimaru Y.	消化器外科	Upregulation of T-cell factor-4 isoform-responsive target genes in hepatocellular carcinoma	Liver Int,2013,33(7):1100-1112
94	Tomimaru Y.	消化器外科	Loss of exon 4 in a human T-cell factor-4 isoform promotes hepatic tumorigenicity.	Liver Int,2013,33(10):1536-1548
95	Kawamoto K.	消化器外科	CD90- (Thy-1-) high selection enhances reprogramming capacity of murine adipose-derived mesenchymal stem cells.	Dis Markers,2013,35(5):573-579
96	Kurokawa Y.	消化器外科	Treatment approaches to esophagogastric junction tumors.	Digest Surg,2013,30(2):169-173
97	Oue T, et al	小児成育外科学	Hedgehog signal inhibitors suppress the invasion of human rhabdomyosarcoma cells	Pediatr Surg Int,29,1153-8, 2013
98	Uehara S, et al	小児成育外科学	Increased expression of survivin in hepatoblastoma after chemotherapy.	Eur J Pediatr Surg, 46, 326-331, 2013
99	Uehara S, et al	小児成育外科学	Repair of congenital diaphragmatic hernias through umbilical skin incisions	Pediatr Surg Int, 29, 529-532, 2013
100	Uehara S, et al	小児成育外科学	Prenatally detected giant congenital hemangioma of the fetal neck	J Pediatr Surg Case Reports,1, 29-31, 2013
101	Uehara S, et al	小児成育外科学	Abdominal neuroblastoma with inferior vena cava and right atrial extension	J Pediatr Surg Case Reports, 1, 119-121, 2013
102	Ueno T, et al	小児成育外科学	Impact of pediatric intestinal transplantation on intestinal failure in Japan: findings based on the Japanese intestinal transplant registry.	Pediatr Surg Int, 29(10), 1065-70, 2013

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
103	Ueno T, et al	小児成育外科学	A national survey of patients with intestinal motility disorders who are potential candidates for intestinal transplantation in Japan.	Transplant Proc, 45(5), 2029-31, 2013
104	Ueno T, et al	小児成育外科学	Conversion to prolonged-release tacrolimus for pediatric living related donor liver transplant recipients.	Transplant Proc, 45(5), 1975-8, 2013
105	Umeda S, et al	小児成育外科学	Impact of cow's milk allergy on enterocolitis associated with Hirschsprung's disease	Pediatr Surg Int, Nov;29(11), 1159-63, 2013
106	高静花	眼科	Effect of instillation of eyedrops for dry eye on optical quality.	Investigative Ophthalmology & Visual Science. 54. 4927-4933, 2013
107	原千佳子	眼科	Laser-Induced Choroidal Neovascularization in Mice Attenuated by Deficiency in the Apelin-APJ System	Investigative Ophthalmology & Visual Science 2013, Vol54, No6, 4321-4329
108	原千佳子	眼科	CHOROIDAL THICKNESS IN EYES WITH TILTED DISK SYNDROME	RETINA 2014, Vol34, Issue3, 497-503
109	臼井審一	眼科	Changes in axial length and choroidal thickness after intraocular pressure reduction resulting from trabeculectomy.	Clinical Ophthalmology . 2013;7:1155-1161.
110	不二門 尚	眼科	Feasibility of 2nd Generation STS Retinal Prosthesis in dogs, 2013; ;2013:3119-21.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc
111	佐柳香織	眼科	Comparison of spectral-domain and high-penetration OCT for observing morphologic changes in age-related macular degeneration and polypoidal choroidal vasculopathy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 Jan;252(1):3-9.
112	森本 壮	感覚機能形成学教室	Characteristics of Retinal Reflectance Changes Induced by Transcorneal Electrical Stimulation in Cat Eyes.	PLOS ONE, 9(3),2014
113	不二門 尚	感覚機能形成学教室	Feasibility of 2nd generation STS retinal prosthesis in dogs.	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc., 2013(Jul), pp.3119-3121, 2013
114	Imai T, et al	Department of Otorhinolaryngology – Head & Neck Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine	Pseudo-anterior canalolithiasis	Acta Otolaryngologica
115	Ogawa M, et al	1)Department of Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery, Osaka University, Graduate School of Medicine, , 2)Department of Communication Sciences and Disorders, Prefectural University of Hiroshima	Immediate effectiveness of humming on the supraglottic compression in patients with muscle tension dysphonia	Folia Phoniatrica et Logopaedica 65(3): 123-128, 2013.

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
116	Morihana T, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	An inhibitory role for Sema4A in antigen-specific allergic asthma.	J Clin Immunol. 2013 Jan;33(1):200-9. doi: 10.1007/s10875-012-9798-5. Epub 2012 Sep 25.
117	Hanamoto A, et al	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Limitation of 2-deoxy-2-[F-18]fluoro-D-glucose positron emission tomography (FDG-PET) to detect early synchronous primary cancers in patients with untreated head and neck squamous cell cancer.	Ann Nucl Med. 2013;27:880-5.
118	菅野伸彦	運動器医工学治療学	Nationwide investigation into adverse tissue reactions to metal debris after metal-on-metal total hip arthroplasty in Japan	Journal of Orthopaedic Science
119	菅野伸彦	運動器医工学治療学	Computer-Assisted Orthopaedic Surgery and Robotic Surgery in Total Hip Arthroplasty	Clin Orthop Surg
120	西井孝	整形外科	Alendronate treatment for hip osteoarthritis: prospective randomized 2-year trial.	Clinical Rheumatology 32:1759-1766, 2013.
121	Nishii T, et al	Department of Orthopaedic Medical Engineering, Osaka University Graduate School of Medicine Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine,	Is ultrasound screening reliable for adverse local tissue reeaction after hip arthroplasty?	J Arthroplasty. [Epub ahead of print]
122	前達雄	整形外科	Immediate postoperative anterior knee stability: Double-versus triple-bundle anterior cruciate ligament reconstructions.	Arthroscopy, 29:213-219, 2013.
123	Takashi Kaito, et al	1, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka Minami Medical Center	Predicctors for the progression of cervical lesion in rheumatoid arthritis under the treatment of biological agents	Spine, 38(26), p2258-63, 2013
124	Takashi Kaito, et al	1, Department of Orthopaedic Surgery, Osaka University Graduate School of Medicine, 2, Department of Orthopaedic Surgery, University of California, Los Angeles	Synergistic effect of bone morphogenetic proteis 2 and 7 by ex vivo gene therapy in a rat spinal fusion model	J Bone Joint Surg Am. 95(17), p1612-1619
125	平尾眞	整形外科	Computer assisted planning and custom-made surgical guide for malunited pronation deformity after first metatarsophalangeal joint arthrodesis in rheumatoid arthritis. A case report.	Computer Aided Surgery, 19:13-19, 2014.
126	柏井将文	整形外科	Surgical treatment for osteoporotic vertebral collapse with neurological deficits: Retrospective comparative study of three procedures-anterior surgery versus posterior spinal shorting osteotomy versus posterior spinal fusion using vertebroplasty.	European Spine Journal, 22:1633-1642, 2013.
127	蛭名耕介	整形外科	Oxygen and air nanobubble water solution promote the growth of plants, fishes, and mice.	PLoS ONE, 8: e65339, 2013.
128	Hanafusa T, et al	Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita city, Osaka, Japan	Increased frequency of skin-infiltrating FoxP3(+) regulatory T cells as a diagnostic indicator of severe atopic dermatitis from cutaneous T cell lymphoma.	Clin Exp Immunol 172(3):507-12,2013

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
129	Itoi S, Terao M, et al	Department of Dermatology, Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan.	11 $\beta$ -Hydroxysteroid dehydrogenase 1 contributes to the pro-inflammatory response of keratinocytes.	Biochem Biophys Res Commun 440(2):265-70,2013
130	Tanaka A, et al	1.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita-Shi, Japan 2.Department of Dermatology, Traumatology and Acute Critical Medicine, Osaka University Graduate School of	Adult case of Stevens-Johnson syndrome possibly induced by Chlamydomphila pneumoniae infection with severe involvement of bronchial epithelium resulting in constructive respiratory disorder.	J Dermatol. 40(6):492-4,2013
131	Tanemura A, et al	Department of Dermatology, Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Suita, and Department of Dermatology, Kinki University Faculty of Medicine, Osakasayama, Japan	Alopecia areata: infiltration of Th17 cells in the dermis, particularly around hair follicles.	Dermatology. 226(4):333-6,2013
132	Wataya-Kaneda M, et al	Department of Dermatology, Graduate School of Medicine, Osaka University, Suita, Osaka, Japan Department of Biomedical Statistics, Graduate School of Medicine, Osaka University, Suita, Osaka, Japan	Trends in the Prevalence of Tuberous Sclerosis Complex Manifestations: An Epidemiological Study of 166 Japanese Patients.	PLOS ONE 8 (5): e63910,2013
133	Yamaga K, et al	1.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine Suita, Osaka, Japan 2.Department of Dermatology, Osaka University Graduate School of Medicine, Diabetes Center, University of California,	Immune reconstitution inflammatory syndrome in a patient with adult-onset Still's disease: Graft-versus-host-like skin reaction with possible asymptomatic human herpes virus reactivation during steroid tapering.	Eur J Dermatol. 24(1):101-3, 2014
134	Itoi S, et al	1.Department of Dermatology Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan. 2.Department of Dermatology Integrated Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Japan.	Coexistence of Langerhans cells activation and immune cells infiltration in progressive nonsegmental vitiligo.	J Dermatol Sci 73(1):85-5,2014
135	富田興一	形成外科	Glial differentiation of human adipose-derived stem cells: Implications for cell-based transplantation therapy.	Neuroscience 236(16):55-65, 2013
136	富田興一	形成外科	Differentiated adipose-derived stem cells promote reinnervation of rat skin flaps.	Plastic and Reconstructive Surgery Global Open 1(3):e22, 2013
137	甲田 亨	神経内科・脳卒中科	Sema4A inhibits the therapeutic effect of IFN- $\beta$ in EAE.	J Neuroimmunol 2014, 268(1-2), 43-49
138	Yagita Y, et al	神経内科・脳卒中科	Functional deterioration of endothelial nitric oxide synthase after focal cerebral ischemia.	J Cereb Blood Flow Metab. 2013 Oct;33(10):1532-9. doi: 10.1038/jcbfm.2013.112. Epub 2013 Jul 3.
139	Aoki Y	精神医学	EEG and Neuronal Activity Topography analysis can predict effectiveness of shunt operation in idiopathic normal pressure hydrocephalus patients	Neuroimage Clin 3:522-530, 2013
140	Yamamori H	精神医学	Plasma levels of mature brain-derived neurotrophic factor (BDNF) and matrix metalloproteinase-9 (MMP-9) in treatment-resistant schizophrenia treated with clozapine	Neurosci Lett 556(2013):37-41, 2013
141	Kazui H	精神医学	Predictors of the disappearance of triad symptoms in patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus after shunt surgery	vJ Neurol Sci 328(1-2):64-9, 2013

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
142	Hashimoto R	精神医学	The KCNH2 gene is associated with neurocognition and the risk of schizophrenia	World J Biol Psychiatry 14(2):114-20, 2013
143	有田英之	脳神経外科	Upregulating mutations in the TERT promoter commonly occur in adult malignant gliomas and are strongly associated with total 1p19q loss	Acta Neuropathol 2013 126:267-276
144	有田英之	脳神経外科	Management of glioblastoma in an NF1 patient with moyamoya syndrome: A case report	Childs Nerv Syst 2013 29:341-345
145	有田英之	脳神経外科	TERT promoter mutations rather than methylation are the main mechanism for TERT upregulation in adult gliomas	Acta Neuropathol 2013 126:939-941
146	平田雅之	脳神経外科	Clinical application of neuromagnetic recordings:from functional imaging to neural decoding	IEICE Trans Electron 2013 96-C:313-319
147	平山龍一	未来医療開発部	Training to acquire psychomotor skills for endoscopic endonasal surgery using a personal webcam trainer	J Neurosurg 2013 118:1120-26
148	細見晃一	脳神経外科	Altered extrafocal iomazenil activity in mesial temporal lobe epilepsy	Epilepsy Research 2013 103:195-204
149	細見晃一	脳神経外科	Cortical excitability changes after high-frequency repetitive transcranial magnetic stimulation for central poststroke pain	Pain 2013 154:1352-7
150	細見晃一	脳神経外科	Daily repetitive transcranial magnetic stimulation of primary motor cortex for neuropathic pain: a randomized, multicenter, double-blind, crossover, sham-controlled trial	Pain 2013 154:1065-72
151	岩月幸一	脳神経外科	Involuntary muscle spasm expressed as motor evoked potential after olfactory mucosa autograft in patients with chronic spinal cord injury and complete paraplegia	Journal of Biomedical Science and Engineering 2013 6:908-916
152	岩月幸一	脳神経外科	Transplantation of olfactory mucosa as a scaffold for axonal regeneration following spinal cord contusion in rats	Neuroscience & Medicine 2013 4:112-116
153	貴島晴彦	脳神経外科	Which is the Most Appropriate Disconnection Surgery for Refractory Epilepsy In Childhood?	Neurol Med Chir (Tokyo) 2013 53:814-20
154	二宮貢士	脳神経外科	T Case Report A case of intrapelvic sciatic nerve schwannoma presenting as piriformis syndrome	Journal of Neuroscience and behavioural health 2013 6:1-4

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
155	大西諭一郎	脳神経外科	Adult olfactory sphere cells are a source of oligodendrocyte and Schwann cell progenitors	Stem cell research 2013 11:1178-1190
156	押野悟	脳神経外科	Prevalence of cerebral aneurysm in patients with acromegaly	Pituitary 2013 16:195-201
157	齋藤洋一	脳神経外科	Electrical or repetitive transcranial magnetic stimulation of primary motor cortex for intractable neuropathic pain	Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc 2013:6163-6
158	齋藤洋一	脳神経外科	Enhancement of withstanding pressure of fibrin sealant by modified mixing ratio of fibrin sealant components for skull base reconstruction: technical note	Neurol Med Chir (Tokyo) 2013 53:814-20
159	重松朋芳	脳神経外科	Endovascular therapy for asymptomatic unruptured intracranial aneurysms: JR-NET and JR-NET2 findings	Stroke 2013 44:2735-42
160	上田 豊	産科婦人科	Taxane-sensitivity of ovarian carcinomas previously treated with paclitaxel and carboplatin	Cancer Chemother Pharmacol 71:1411-1416, 2013
161	上田 豊	産科婦人科	A phase II study of combination chemotherapy using docetaxel and irinotecan for TC-refractory or TC-resistant ovarian carcinomas (GOGO-OV2 study) and for primary clear or mucinous ovarian carcinomas (GOGO-OV3 Study)	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 170:259-263, 2013
162	平松宏祐	産科婦人科	Conization using the Shimodaira-Taniguchi procedure for adenocarcinoma in situ of the uterine cervix	Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol 168:218-221, 2013
163	瀧内 剛	産科婦人科	Suppression of LUBAC-mediated linear ubiquitination by a specific interaction between LUBAC and the deubiquitinases CYLD and OTULIN	Genes Cells 19:254-272, 2014
164	小林栄仁	産科婦人科	Laparoscopic adnexectomy with peritonectomy for an ovarian tumor adhered to the pelvic sidewall	Gynecol Obstet Invest 75:250-254, 2013
165	小林栄仁	産科婦人科	Pedunculated subserous leiomyosarcoma mimicking ovarian cancer: case report and review of the literature	Gynecol Obstet 3, 2013
166	高橋 恵	産科婦人科	Disease flare-ups and obstetric outcomes in pregnant women with systemic lupus erythematosus	Hypertens Res Pregnancy 2:1-5, 2013
167	吉野 潔	産科婦人科	Salvage chemotherapy for recurrent or persistent clear cell carcinoma of the ovary: a single-institution experience for a series of 20 patients	Int J Clin Oncol 18:148-153, 2013

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
168	馬淵誠士	産科婦人科	A phase I study of concurrent weekly carboplatin and paclitaxel combined with intensity-modulated pelvic radiotherapy as an adjuvant treatment for early-stage cervical cancer patients with positive pelvic lymph nodes	Int J Gynecol Cancer 23:1279-1286, 2013
169	馬淵誠士	産科婦人科	Reirradiation using high-dose-rate interstitial brachytherapy for locally recurrent cervical cancer: a single institutional experience	Int J Gynecol Cancer 24:141-148, 2014
170	柿ヶ野藍子	産科婦人科	Imbalance of angiogenic factors and avascular edematous cystic villi in a trisomy 13 pregnancy: a case report	Placenta 34:628-630, 2013
171	木村 正	産科婦人科	Molecular analysis of parturition via oxytocin receptor expression	Taiwan J Obstet Gynecol 52:165-170, 2013
172	中川 慧	産科婦人科	Methods for cervical cancer screening: the differences between developing and developed countries	Cervical cancer: screening methods, risk factors and treatment options (Edited Elit, L.), Chapter2:33-40,
173	Matsuzaki S, et al	産婦人科	Large Uterine Cervical Adenomyoma Excised by Vaginal Approach: A Case Report, Images, and A Literature Review.	J Minim Invasive Gynecol. 2014 Feb 25. pii: S1553-4650(14)00174-5.
174	近藤 宏樹	小児科	sodium-coupled neutral amino acid transporter 4 functions as a regulator of protein synthesis during liver development.	Hepatology Resarch Volume 43, Issue 11, pages 1211-1223,2013.
175	別所 一彦	小児科	Integrative genomics identifies candidate microRNAs for pathogenesis of experimental biliary atresia.	BMC Syst Biol, 7: 104, 2013
176	別所 一彦	小児科	Gene expression signature for biliary atresia and a role for Interleukin-8 in pathogenesis of experimental diseases	Hepatology Volume 60, Issue 1, pages 211-223,2014.
177	藤原 誠	小児科	Detection and characterization of two novel mutations in the HNF4A gene in maturity-onset diabetes of the young type 1 in two Japanese families.	Horm Res Paediatr, 79(4) : 220-226,2013
178	藤原 誠	小児科	Treatment of hypophosphatemic rickets with phosphate and active vitamin D in Japan: A questionnaire-based survey.	Clin Pediatr Endocrinol ,22(1):9-14,2013
179	大藪 恵一	小児科	Therapeutic use of oral sodium phosphate (phosribbon® combination granules) in hereditary hypophosphatemic rickets.	Clin Pediatr Endocrinol, 23(1):9-15,2014
180	大幡 泰久	小児科	Elevated fibroblast growth factor 23 exerts its effects on placenta and regulates vitamin D metabolism in pregnancy of Hyp mice.	J Bone Miner Res, volume29, issue 7, pages1627-1638,2014

小計

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
181	北岡 太一	小児科	Two Japanese familial cases of caffey disease with and without the common COL1A1 mutation and normal bone density, and review of the literature.	Eur J Pediatr, 173(6) : 799-804,2014
182	高原 史郎	先端移植基盤医療学	Randomized comparative trial of mizoribine versus mycophenolate mofetil in combination with tacrolimus for living donor renal transplantation.	Clinical and Experimental Nephrology 2013.12 17(6) p899-904
183	Ueda K	放射線診断科	Slow-growing primary marginal zone B-cell lymphoma arising in the chest wall in a patient without a history of tuberculosis.	Acta Radiol Short Rep. 18:2(2), 2013
184	Hori M	放射線診断科	Endometrial Cancer: Preoperative Staging Using Three-Dimensional T2-weighted Turbo Spin-Echo and Diffusion-weighted MR Imaging at 3.0 T - A Prospective Comparative Study.	Eur Radiol. 23(8):2296-2305, 2013
185	Maeda N	放射線診断科	Targeting and recanalization after embolization with calibrated resorbable microspheres versus hand-cut gelatin sponge particles in a porcine kidney model.	J Vasc Interv Radiol. 24(9): 1391-8, 2013
186	Onishi H	放射線診断科	Hepatic steatosis: Effect on hepatocyte enhancement with gadoxetate disodium-enhanced liver MR imaging.	J Magn Reson Imaging. Epub. 2013
187	Osuga K	放射線診断科	In: Geschwind JFH, Dake MD, ed. Abrams' Angiography: Interventional Radiology, 3rd edition.	Philadelphia, Lippincott Williams & Wilkins, 361-36, 2013
188	磯橋 文明	放射線治療学	Dose-volume histogram predictors of chronic gastrointestinal complications after radical hysterectomy and postoperative concurrent nedaplatin-based chemoradiotherapy for early-stage cervical cancer.	Int J Radiat Oncol Biol Phys. 85:728-734, 2013
189	磯橋 文明	放射線治療学	Patterns of radiotherapy practice for biliary tract cancer in Japan: results of the Japanese radiation oncology study group (JROSG) survey.	Radiat Oncol, 8:76, 2013
190	小川 和彦	放射線治療学	Old but new methods in radiation oncology: Hyperbaric oxygen therapy.	Int J Clin Oncol. 18(3):364-70, 2013
191	小川 和彦	放射線治療学	Radiotherapy targeting cancer stem cells: current views and future perspectives.	Anticancer Res. 33(3):747-754, 2013
192	吉岡 靖生	放射線治療学	Re-irradiation using interstitial brachytherapy increases vaginal mucosal reaction compared to initial brachytherapy in patients with gynecological cancer.	Anticancer Res. 33:5687-92, 2013
193	吉岡 靖生	放射線治療学	Comparisons of late vaginal mucosal reactions between interstitial and conventional intracavitary brachytherapy in patients with gynecological cancer: speculation on the relation between pallor reaction and stenosis	Anticancer Res. 33:3963-8, 2013

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
194	吉岡 靖生	放射線治療学	The emerging role of high-dose-rate (HDR) brachytherapy as monotherapy for prostate cancer.	J Radiat Res. 54:781-8, 2013
195	Shimosegawa E, et al	核医学診療科、医薬分子イメージング学寄附講座、医療技術部放射線部門	Quantitative CBF measurement using an integrated SPECT/CT system: validation of three-dimensional ordered-subset expectation maximization and CT-based attenuation correction by comparing with O-15 water PET.	Ann Nucl Med. 2013 Nov;27(9):822-33.
196	Isohashi K, et al	核医学診療科、医薬分子イメージング学寄附講座、医療技術部放射線部門	Optimization of [11C]methionine PET study: appropriate scan timing and effect of plasma amino acid concentrations on the SUV.	EJNMMI Res. 2013 Apr 15;3(1):27.
197	和田直樹	病理診断科	Characterization of subpopulation lacking both B-cell and plasma cell markers in Waldenstrom macroglobulinemia cell line	Laboratory Investigation, 94(1), 79-88, 2014 Jan
198	野島 聡	病理診断科、呼吸器免疫アレルギー内科、神経内科	A point mutation in Semaphorin 4A associates with defective endosomal sorting and causes retinal degeneration.	Nat Commun. 2013;4:1406.
199	Kashiwagi H, et al	血液・腫瘍内科 輸血部	Demonstration of novel gain-of-function mutations of $\alpha$ IIb $\beta$ 3: association with macrothrombocytopenia and glanzmann thrombasthenia-like phenotype.	Molecular Genetics & Genomic Medicine 1:77-86, 2013.
200	清水健太郎 外	高度救命救急センター	Communicating by electrolarynx with a blind tetraplegic spinal cord injury patient on mechanical ventilation in the ICU	Spinal Cord (2013,51,4)
201	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	The effect of electrical muscle stimulation on the prevention of disuse muscle atrophy in patients with consciousness disturbance in the intensive care unit	Journal of Critical Care (2013,28,4)
202	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	Altered balance of the aminogram in patients with sepsis - The relation to mortality	Clinical Nutrition (2014,33,1)
203	廣瀬智也 外	高度救命救急センター	Effectiveness of a simplified cardiopulmonary resuscitation training program for the non-medical staff of a university hospital	Scandinavian Journal of Trauma Resuscitation and Emergency Medicine (2014,22)
204	小倉裕司 外	高度救命救急センター	Epidemiology of severe sepsis in Japanese intensive care units: A prospective multicenter study	J Infect Chemother (2014,20,3)
205	Emiko T. Isomura, et al	First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University, Graduate School of Dentistry, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Yao Municipal Hospital	Electrophysiologic evaluation of inferior alveolar nerve n regenerated by bifocal distraction osteogenesis in dogs.	PRSJ. 132(4), 877-82. 2013
206	Emiko Tanaka Isomura, et al	First Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Osaka University, Graduate School of Dentistry, Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Yao Municipal Hospital	Inferior alveolar nerve regeneration after bifocal distractin osteogenesis in dogs.	J Oral Maxillofac Surg. 65, e1-11. 2013

小計

13

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
207	山田幸子	放射線部	Radiotherapy treatment planning with contrast-enhanced computed tomography: feasibility of dual-energy virtual unenhanced imaging for improved dose calculations	Radiation Oncology 9:168, 2014

合計 207件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
~				

回答しない

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 目的と適応範囲・責務・構成・委員長選任方法・会議の成立要件・会議の運営・臨床研究の継続に関する審議・未来医療臨床研究審査評価委員会への報告事項・会議の記録及び概要に関する事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年7回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 目的、審議事項、組織、手続き、指導及び勧告	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年6回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年10回
・ 研修の主な内容 [基礎編] ・未来医療開発部の役割と活動・治験の基礎について・CRC支援について・臨床・疫学研究のルール等 [更新編] ・治験、臨床研究のこれからの方向性・治験の記録について・治験実施の注意点・倫理指針遵守のポイント等	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六

年度中の業務報告(平成25年度実績)において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

卒後研修を修了した医員は、各診療科指導医のもとに、症例検討会や医局内、学内研究会を通じて、入院患者及び外来患者の臨床指導を受けるとともに、各専門グループに所属し、直接的な指導により、大学病院としての高度先進医療の知識と技術の習得を行い、さらに専門的臨床研究を行っている。各診療科での指導の下に臨床経験の蓄積により、所定の年限、条件を兼備することにより、各診療科の学会認定医、専門医等の申請を行っている。

更に、所属医師会長の推薦のあった希望者に対して、高度先進的知識と技術の習得を目的として、学外から研修登録医制度に基づき、1年間の研修を行っている。

高度の医療に関する臨床研修を適切に行わせている。

専門的な研修を受ける医師の数が年間平均 30人以上である。

「標榜診療科目」に定める診療科ごとに、研修プログラムを管理し、研修を統括する者（研修統括者）を置いている。研修統括者は、担当する診療領域における臨床経験を10年以上有している。

2 研修の実績

研修医の人数	285人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
彦惣俊吾	循環器内科	特任准教授	16年	
猪阪善隆	腎臓内科	寄附講座准教授(科長)	25年	
巽 智秀	消化器内科	助教(医局長)	21年	
岩橋博見	内分泌・代謝内科	助教	23年	
長友 泉	呼吸器内科	助教(病棟医長)	17年	
檜崎雅司	免疫・アレルギー内科	講師(診療局長)	26年	
織谷健司	血液・腫瘍内科	准教授(副科長)	29年	
竹屋 泰	老年・高血圧内科	助教(病棟医長)	16年	
平 将生	心臓血管外科	助教	10年	
新谷 康	呼吸器外科	助教(診療局長)	19年	
江口英利	消化器外科	助教(診療局長)	21年	
島津研三	乳腺・内分泌外科	講師(診療局長)	19年	
奈良啓悟	小児成育外科	助教(病棟医長)	15年	
坂口裕和	眼科	寄附講座准教授(診療局長)	18年	
今井貴夫	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	助教(外来医長)	18年	
村瀬 剛	整形外科	准教授(副科長)	26年	
種村 篤	皮膚科	講師(副科長)	16年	
細川 互	形成外科	教授(科長)	34年	
奥野龍禎	神経内科・脳卒中科	助教	17年	
田中稔久	神経科・精神科	准教授(副科長)	25年	
香川尚己	脳神経外科	助教(診療局長)	16年	
入嵩西 毅	麻酔科	助教	14年	

藤田征巳	産科婦人科	准教授(副科長)	26年	
近藤宏樹	小児科	助教	19年	
藤田和利	泌尿器科	助教(副科長)	14年	
本多 修	放射線診断科	講師	21年	
礪橋文明	放射線治療科	特任准教授(診療局長)	13年	
藤野裕士	集中治療部	教授(部長)	28年	
池田純一郎	病理部	准教授(副部長)	11年	
岡 亨	総合診療部	講師(副部長)	20年	
小倉裕司	高度救命救急センター	准教授(副センター長)	26年	
高野 徹	臨床検査部	講師(副部長)	19年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

名 称	内 容	開催期日	参加者
個人目標管理研修会	医療技術部の役割と使命	2013/4/4	120人
医療技術部新規採用者研修会	各部署の業務内容の紹介と見学	2013/5/30	26人
疾患別統合勉強会	心臓 partⅡ（各部門からの情報提供）	2013/6/20	96人
〃	呼吸器（各部門からの情報提供）	2014/2/6	93人
スキルアップセミナー	こころの健康	2013/10/31 2013/11/7	67人 79人
個人目標管理「成果の発表」	各部門の代表的な学術成果の発表	2014/3/7	93人
大阪大学臨床栄養研究会(CNC)	開催時ごとにテーマが変わる	月1回	平成25年度延べ30人
栄養マネジメント部定期勉強会	開催時ごとにテーマが変わる	2ヶ月に1回	平成25年度延べ42人

\*その他、学会参加、資格取得を推奨している。（糖尿病療法指導士、NST専門療法士、病態栄養専門師等）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

名 称	内 容	開催期日	参加者
医療技術部主任者会	新人教育システムを考える	2013/5/30	33人
〃	情報の共有として考える	2013/9/19	30人
個人目標管理	医療技術部の役割と使命	2013/4/4	120人
安全管理講習会	AEDを用いた心肺蘇生法	2013/6/6	40人
〃	患者動作介助法	2013/7/10	34人
感染対策講習会	血液暴露	2013/9/5	88人
接遇講習会	聴覚障害者への対応	2013/12/5	84人
医療機器安全講習会	人工呼吸器の安全使用について	2013/5/23	207人

医療機器安全講習会	ペースメーカーが医療機器から受ける影響	2013/7/25	121人
〃	医療機器の保守点検の必要性	2013/2/21	94人
MR装置の安全管理講習会	MR装置の特性の理解と安全管理の体験研修	2013/6/4～7	109人
医療機器安全使用研修	医療機器を安全に使用するための体験学習	毎木曜（13回）	88人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

名 称	内 容	開催期日	参加者
阪大GCPセミナー	治験を実施するための基礎的知識の習得を目的とするとともに、治験の現状と問題点、今後の方向性について内部、外部の講師が体系的に解説・説明する	平成25年4月～11月 全8回 17:30～19:00 (75分の講演と15分間の質疑応答)	延べ248人 (院内院外) (平均31人/回)

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告(平成25年度実績)においては、平成二十六年四月以降の実績(計画)を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかにすること)。

## (様式第5)

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病院長 金倉 讓	
管理担当者氏名	総務課長 永家 清考 薬剤部長 三輪 芳弘	医事課長 松本 光弘 放射線部長 富山 憲幸

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌  検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書  処方せん 手術記録 看護記録 エックス線写真 各科診療日誌	総務課  医事課  薬剤部 手術部 看護部 放射線部 各診療科	カルテ等病歴資料は、1患者1カルテとし、コンピュータによる集中管理を行っている。 エックス線写真は、PACS（画像サーバ）で集中保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
	高度の医療の提供の実績	医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課
	高度の医療の研修の実績	総務課
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	中央クオリティマネジメント部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	中央クオリティマネジメント部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	中央クオリティマネジメント部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	中央クオリティマネジメント部
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相	医事課

	項	談に適切に応じる体制の確保状況		
--	---	-----------------	--	--

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課 感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療技術部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療技術部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療技術部		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 永家 清考	
閲覧担当者氏名	総務課庶務係長 松本 安啓	
閲覧の求めに応じる場所	総務課庶務係	
閲覧の手続の概要 閲覧の希望が庶務係へあった場合に対応。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： 1. 患者中心の医療の実践 2. 診療情報の共有 3. 医療安全に関する組織的取り組み 4. インシデントの報告 5. 機能する医療事故防止対策 6. 適切な医療事故への対応 7. 患者からの医療相談の実施 8. 医療安全情報の共有 9. 職員に対する教育研修 10. 医療安全文化の構築 11. 医療安全管理マニュアルの作成・更新 12. 医療安全管理に関する指針の公開	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 29 回
・ 活動の主な内容： 統括医療安全管理委員会： 本院における医療に係る安全管理について統括する 年11回 リスクマネジメント委員会： 医療事故の防止策を策定する 年 6回 医療クオリティ審議委員会： 医療の質の向上を図る 年12回 医療事故対策委員会： 医療事故が発生した場合の必要な対応を行う 年 0回	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 10 回
・ 研修の主な内容： 1. 医療安全のための注意点 2. 安全管理の技術：指示伝達ルール、誤薬防止対策、患者確認、転倒転落防止 3. 医療安全セミナー：せん妄の診断と治療 4. 医療安全セミナー：小児のBLS 5. Ai (Autopsy Imaging) 所見から考える死因と死亡診断書記載について 6. 深部静脈血栓症および肺塞栓症の予防・診断・治療ガイドラインについて 7. 低栄養患者の安全な輸液・栄養管理について 8. 医療従事者間のコミュニケーション 9. 病棟及び外来における医療安全への患者参加の成果 10. インシデントへの対応及び再発防止策について	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療安全関係マニュアルの改訂と周知 2. 医療事故防止のために院内マニュアル (第6版) 3. 深部静脈血栓症および肺塞栓症の予防・診断・治療ガイドライン (第2版) 4. 患者確認強化期間の実施 5. 患者参加「阪大いろうた」日本語版、英語版、中国語版公開 (ホームページ) 6. 高濃度酢酸の使用について現状調査と注意喚起、及びオーダ可能な部門の限定と周知 7. 手術安全チェックリストの具体的行動指導：消化器外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、麻酔科、眼科、心臓血管外科へのロールプレイ	

8. 手術安全チェックリスト作成・運用開始 9. 化学療法の同意書の取得に係る現状調査と周知 10. ペースメーカー使用の9Vアルカリ乾電池の物流管理（供給）の見直し 11. 錠剤の一部（分割）処方オーダーの際のエラーメッセージの改訂 12. 転倒転落症例の分析及び予防方法の検討 13. 頭部保護帽子の検討 14. 病理Ai（Autopsy Imaging）体制の検討 15. 生殖医療センターにおける胚管理体制の見直し 16. パルスオキシメーター誤表示の検証 17. CVC関連インシデントの検証 18. eラーニング作成・実施（看護必要度の適切な評価のために、医療従事者間のコミュニケーション、病棟及び外来における医療安全への患者参加の成果、Ai所見から考える死因と死亡診断書記載） 19. eラーニング作成に関するレクチャー用教材作成	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) ( 3 名 ) ・ 無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) ( 8 名 ) ・ 無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有) ・ 無
・ 所属職員： 専任（ 3 ）名 兼任（ 4 ）名 ・ 活動の主な内容：  1. インシデントの調査・分析・レポート管理 2. 医療事故防止方策の検討・実施・評価 3. リスクマネジャー会議の開催 4. 職員研修の企画・実施 5. 医療安全推進及び教育のための教材の開発・活用 6. 現場のリスクマネジャー支援 7. 他の委員会や部署、各職種間の連絡調整 8. リスクマネジメント委員会等の開催準備及び支援 9. 医療事故後の患者及び家族等への対応支援等	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有) ・ 無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>・ 院内感染対策に関する組織的な取り組み</li><li>・ 感染制御部の設置と目的</li><li>・ 院内感染対策の対象者</li><li>・ 院内感染対策の内容</li></ul></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容： 感染対策委員会</li><li>1. 院内感染症の届出状況や抗菌薬の使用状況等の報告</li><li>2. 院内感染対策についての審議 (感染対策の重要事項に関すること、必要に応じての指導助言に関すること、院内感染防止対策の施設基準に関すること等)</li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 20 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全職員対象：3回/年 院内環境対策 感染症対策 院内感染対策のまとめの報告</li><li>・ 対象別教育 新採用者（研修医、看護師）-院内感染対策の基本についての講義と演習 部署単位での勉強会-耐性菌対策、抗菌薬の適正使用など部署の問題に応じた内容 外部委託業者（清掃員、洗浄員、受付、メッセンジャーなど）インフルエンザ対策</li></ul></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( ○・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 耐性菌サーベイランス、デバイスサーベイランス等のサーベイランスデータを元に対象部署に介入を行い感染対策の改善を図っている 耐性菌サーベイランスを元にした介入（MRSA、MDRP、ESBL産生株など） デバイスサーベイランス実施部署：ICU（BSI、UTI、VAP） 救命救急センター（BSI、UTI） 薬剤部からのデータを元に抗菌薬適正使用にむけての介入を行っている 8日以上継続使用には、抗菌薬継続使用届の追加届出を必要とする 対象患者のリストアップは専任薬剤師によって行う 専従の医師により、感染症治療コンサルテーションを受け、抗菌薬適正治療を促進している</li></ul>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容： 25年度の講習会実施実績</p> <p>①5月23日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （207名参加）「入院がん化学療法安全管理」</p> <p>②9月25日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （121参加）「睡眠導入薬と転倒転落等インシデント」</p> <p>③11月21日 阪大病院フォーラム （2561名参加）「病棟薬剤業務における薬剤師の役割」</p> <p>④2月21日 医療機器・医薬品安全講習会（阪大病院フォーラム） （94名参加）「麻薬の安全管理」</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （○有・無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品安全業務手順書の策定・見直し</li><li>・ 従業者に対する医薬品安全使用のための研修企画・実施</li><li>・ 業務手順書に基づく業務実施の確認・記録</li><li>・ 医薬品の安全使用のための情報収集その他改善方策</li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 重要安全情報の発信（委員および各部署医薬品安全管理者に速報）</li><li>・ 医薬品・医療機器等安全性情報(厚労省)No.301～310速報</li><li>・ PMDA・製薬企業からの医薬品適正使用のお願い等の配信</li><li>・ 医薬品安全関連情報、院内副作用情報のHP提供、</li><li>・ 院内医薬品集発行、薬剤関連マニュアル改訂</li><li>・ 救急カートの薬品チェック表整備</li></ul>	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 47 回
・ 研修の主な内容： ①医療機器の有効性・安全性に関する事項，②医療機器の使用方法に関する事項，③医療機器の保守点検に関する事項，④医療機器の不具合が生じた場合の対応に関する事項，⑤医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項について、クラスⅢ以上の装置が新規導入された際に、新規採用者や異動者がその装置の操作に携わる時や、特に装置使用に際して技術の習熟が必要と考えられる医療機器に関して定期的に機器操作安全使用研修会を開催している。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( ①・無 ) ・ 保守点検の主な内容： ①人工心肺装置及び補助循環装置，②人工呼吸器，③血液浄化装置，④除細動装置，⑤閉鎖式保育器については、MEサービス部で計画を立て、それに則って臨床工学技士ならびにメーカーによる保守点検を実施している。 ⑥診療用高エネルギー放射線発生装置，⑦診療用放射線照射装置，⑧その他保守点検が必要と考えられる医療機器については、放射線部ならびに関係部署で計画を立て、それに則って保守点検が実施されるようにメーカーに依頼している。 中央管理する医療機器についてはMEサービス部で計画を立て、それに則って臨床工学技士ならびに委託業者による保守点検を実施している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ①・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 人工呼吸装置や除細動装置に対しての研修対象者が多く、新規採用者や異動者そして定期的な研修に各部署の医療機器管理者や臨床工学技士がカバー仕切れていない状況がある。 そこで、機器の説明，正しい使用方法と日々の精度管理を集約したe-learningシステムを構築することを計画し、そのVTRの収録や企画構成を行なった。	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 平成23年1月に(財)日本医療機能評価機構から最新基準(Ver.6.0)に認定された。	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 平成24年に本院公式ホームページをリニューアルして以降、内容の充実を図るとともに、見やすくわかりやすい情報提供を行っている。今後も引き続き適切な情報発信を行う。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 H25年度には、院内のIVR診療において、関連診療科や診療部門並びに関連医師やコメディカルが連携し、包括的な診断及び治療を実現するため、IVRセンターを設置した。	